

(2)都道府県・指定都市別結果チャート

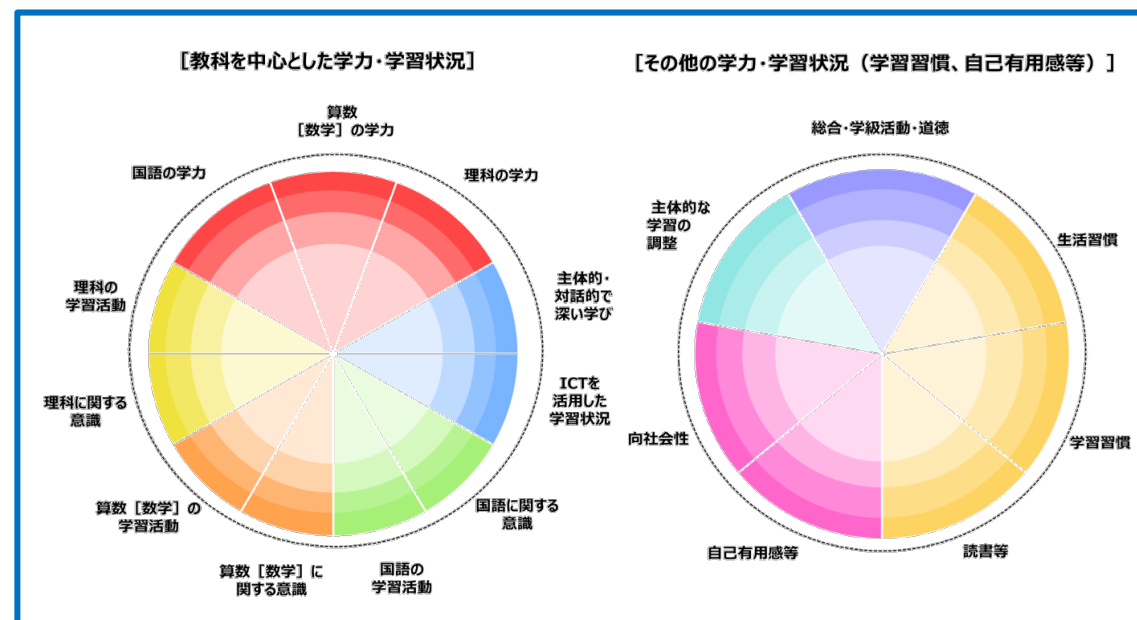
- 各学校において自らの児童生徒の学力・学習状況等を多面的な分析を行うことをねらいとして開発。
- 都道府県・指定都市別の児童生徒・学校質問調査の「領域別回答状況」の得点換算方法
 - (1) 学校別に、領域ごとの質問項目回答割合から、肯定的な回答割合が高いほど点数が高くなるよう得点を算出。
 - (2) (1)で学校別に算出した得点を全国平均が0、標準偏差が1になるように標準化する。
 - (3) 当該都道府県（又は指定都市）内の算出の対象とする全学校について、(2)の数値の平均を算出する。
 - (4) (3)で算出された得点に5.0を加える。

＜教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童（生徒）質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童(生徒)質問 対応領域・質問番号
1	国語の学力	
2	算数(数学)の学力	
3	理科の学力	
4	主体的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)
5	ICTを活用した学習状況	(28)(29)
6	国語に関する意識	(44)(45)(47)
7	国語の学習活動	(46)(48)～(51)
8	算数(数学)に関する意識	(52)(53)(55)(56)
9	算数(数学)の学習活動	(54)(57)～(59)
10	理科に関する意識	(60)(61)(63)～(65) (60)(61)(63)～(66)
11	理科の学習活動	(62)(66)～(70) (62)(67)～(70)

※領域番号1～3については、各教科の全国平均正答率(中学校の領域番号3については全国平均IRTスコア)を基準として比較したものである。

※領域番号4～11については、「小学校児童(中学校生徒)質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

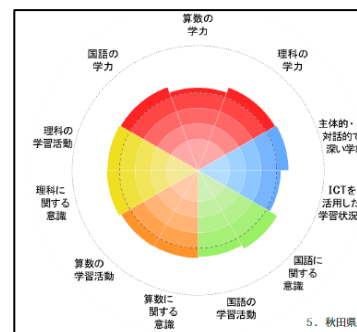


＜その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と児童（生徒）質問番号の対応一覧表＞

領域番号	領域名	児童(生徒)質問 対応領域・質問番号
12	総合・学級活動・道徳	(40)～(43)
13	生活習慣	(1)～(3)
14	学習習慣	(17)(19)
15	読書等	(21)～(24)
16	自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)
17	向社会的性	(8)(9)(11)(27)
18	主体的な学習の調整	(16)(36)

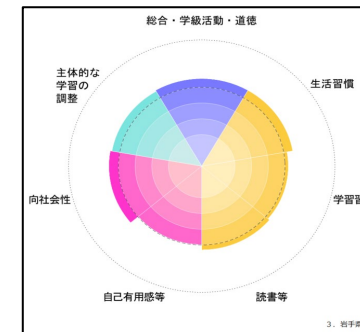
※領域番号12～18については、「小学校児童(中学校生徒)質問対応領域・項目番号」に表示した質問における「選択肢別の得点換算」の全国平均値を基準として比較したものである。

(例)小学校 秋田(教科)

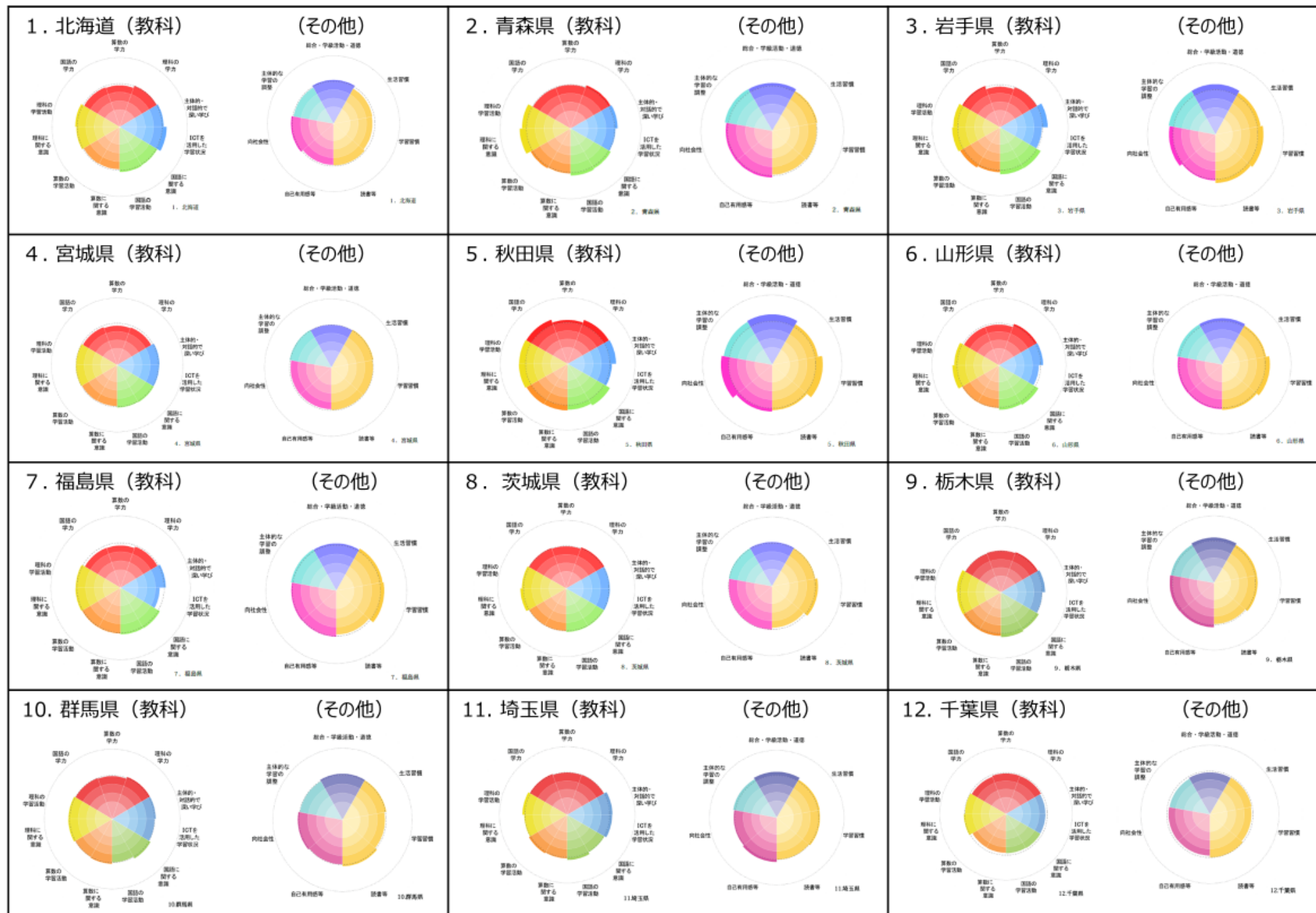


「国語に関する意識」の数値が高い

中学校 岩手(その他)

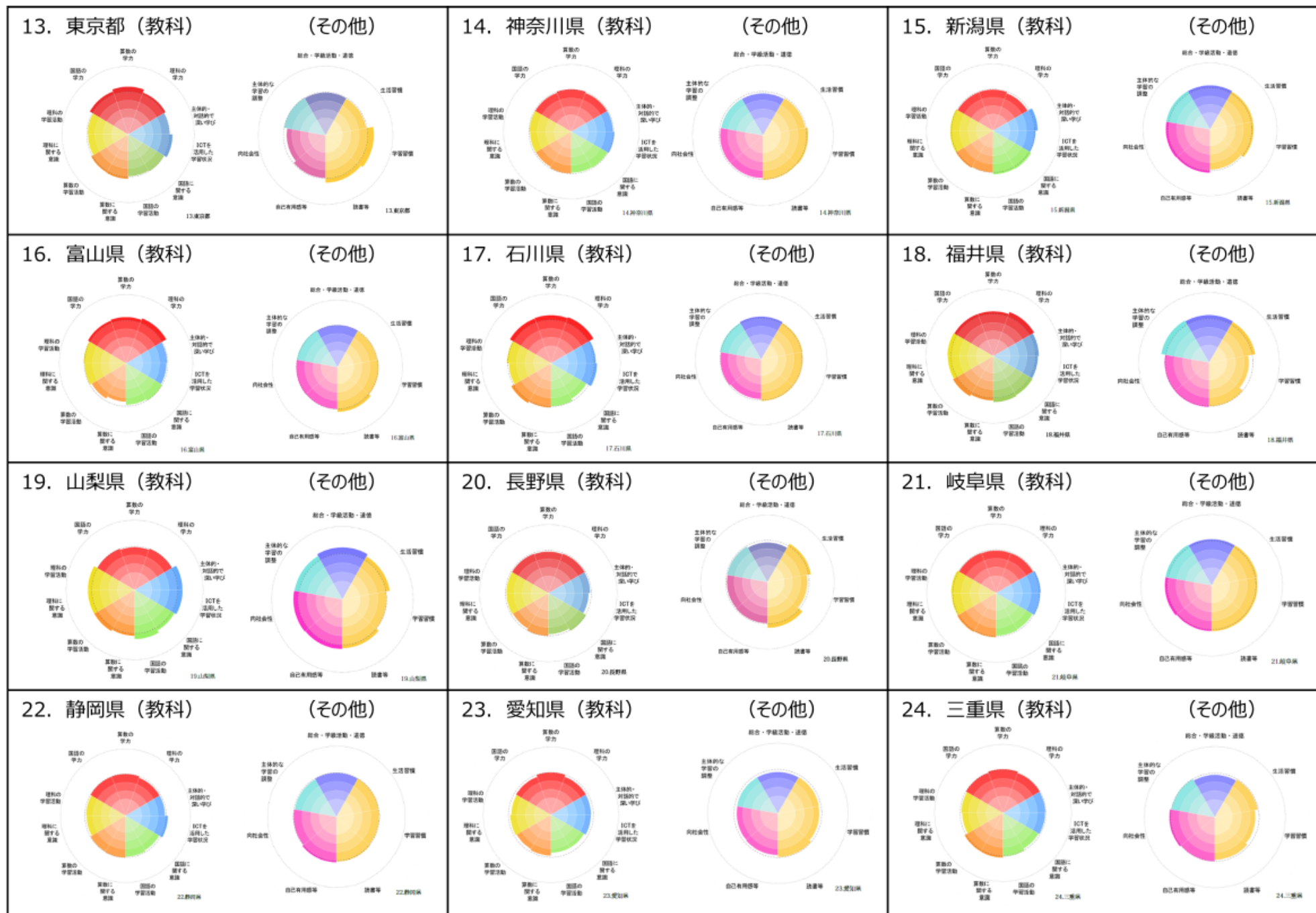


「向社会的性」の数値が高い



①都道府県（指定都市を含む）別 結果チャート

小学校

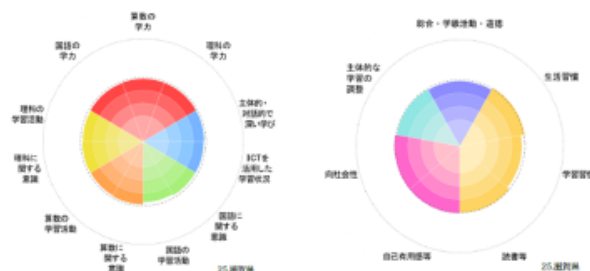


①都道府県（指定都市を含む）別 結果チャート

小学校

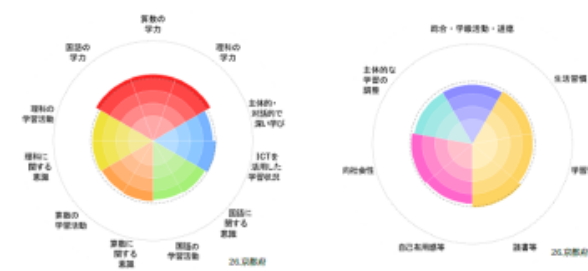
25. 滋賀県（教科）

（その他）



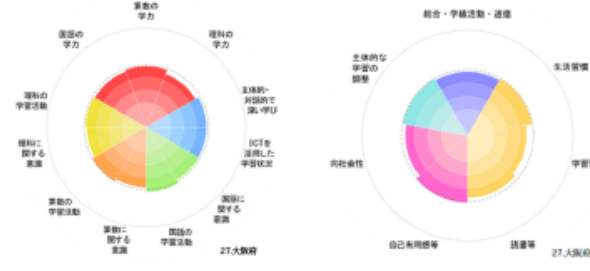
26. 京都府（教科）

（その他）



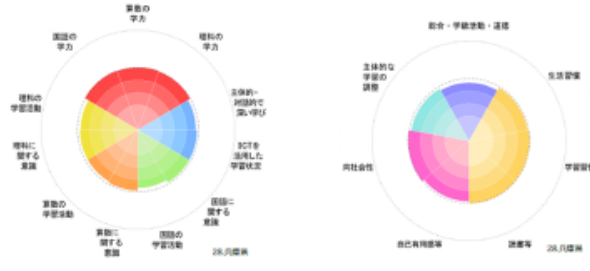
27. 大阪府（教科）

（その他）



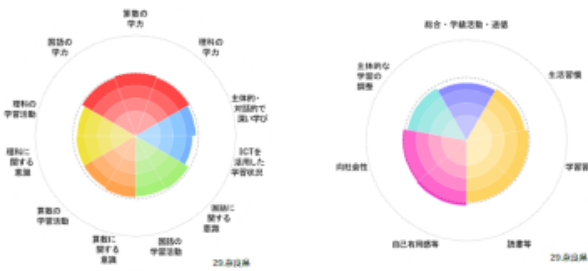
28. 兵庫県（教科）

（その他）



29. 奈良県（教科）

（その他）



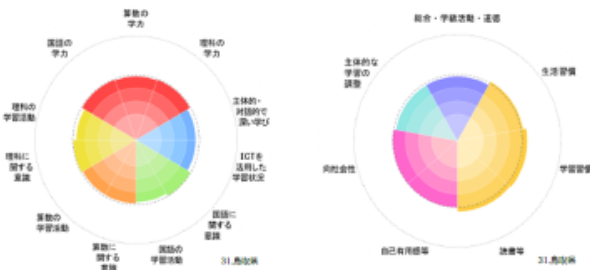
30. 和歌山県（教科）

（その他）



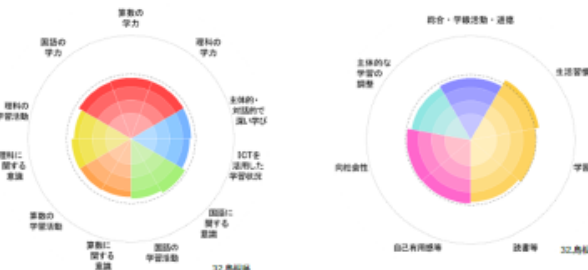
31. 鳥取県（教科）

（その他）



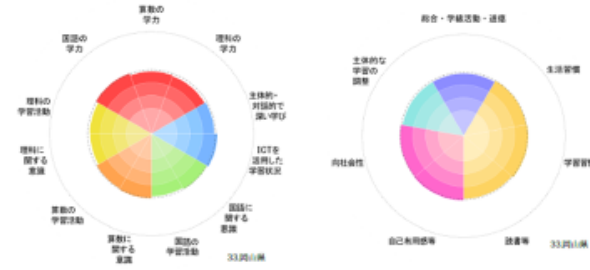
32. 島根県（教科）

（その他）



33. 岡山県（教科）

（その他）



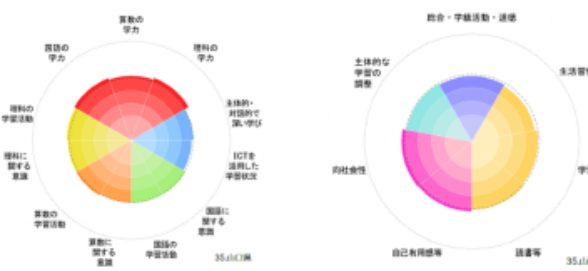
34. 広島県（教科）

（その他）



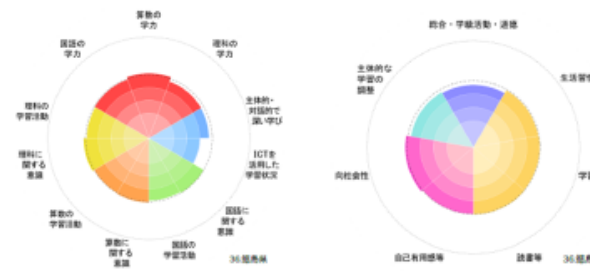
35. 山口県（教科）

（その他）



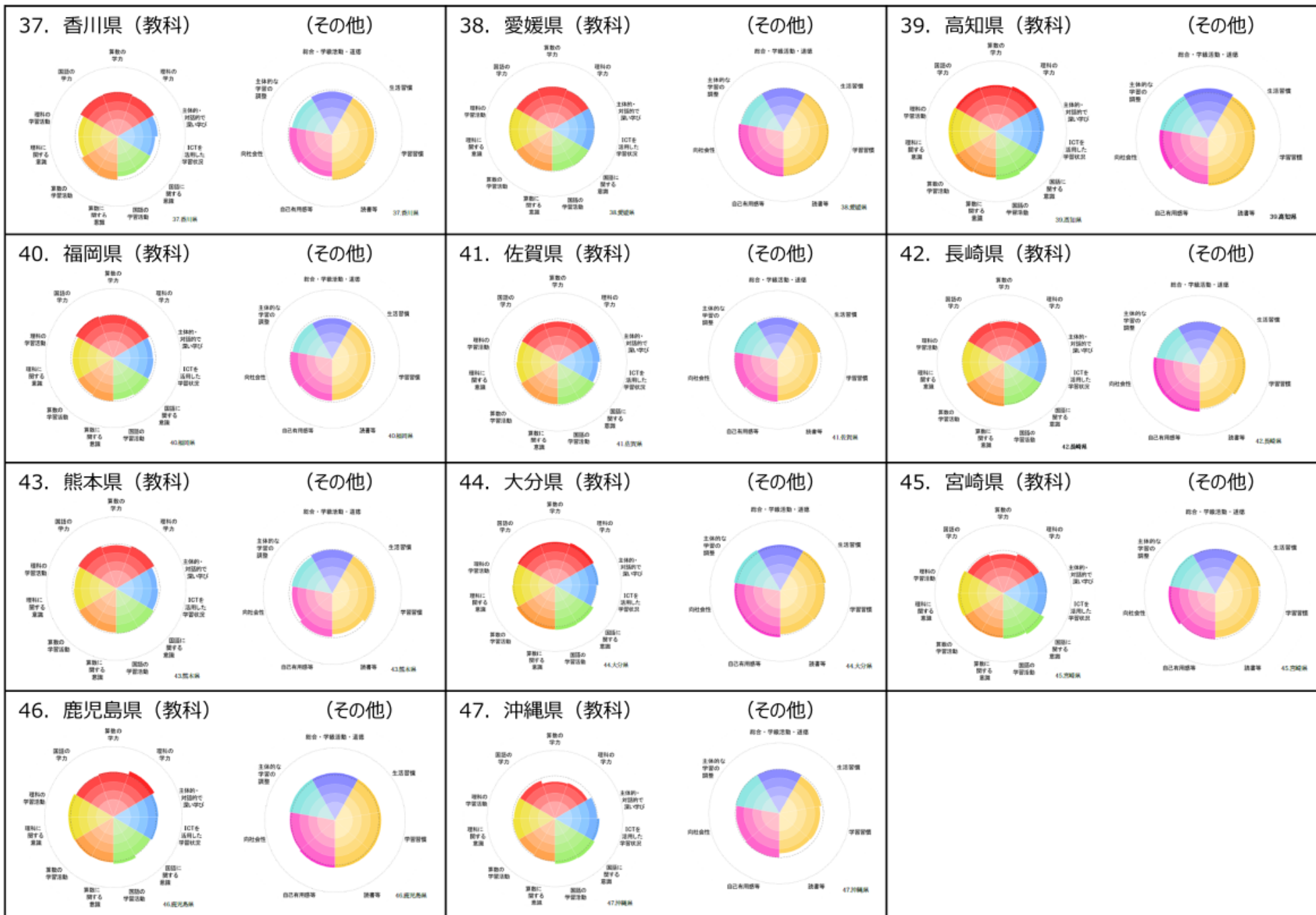
36. 徳島県（教科）

（その他）



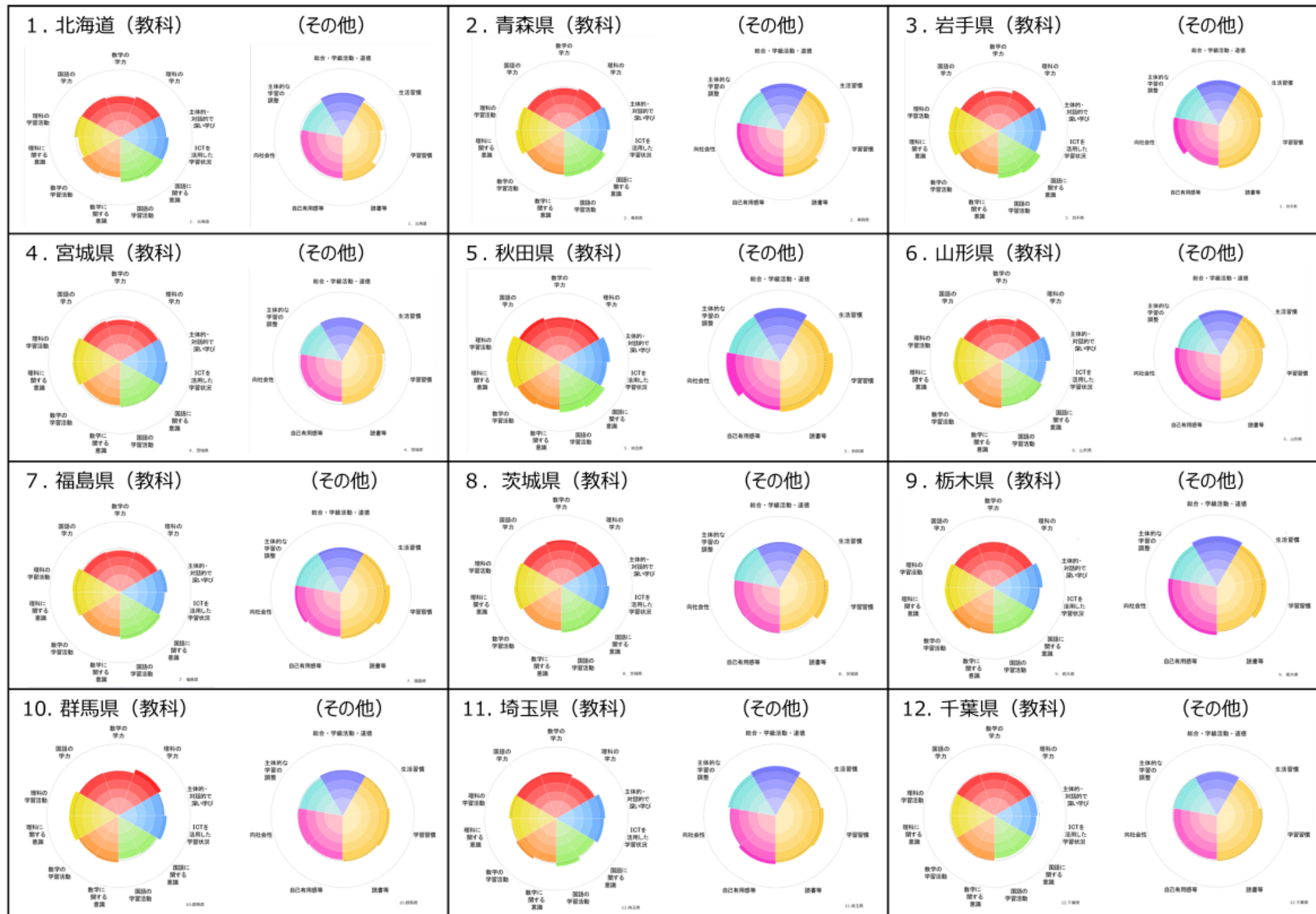
①都道府県（指定都市を含む）別 結果チャート

小学校



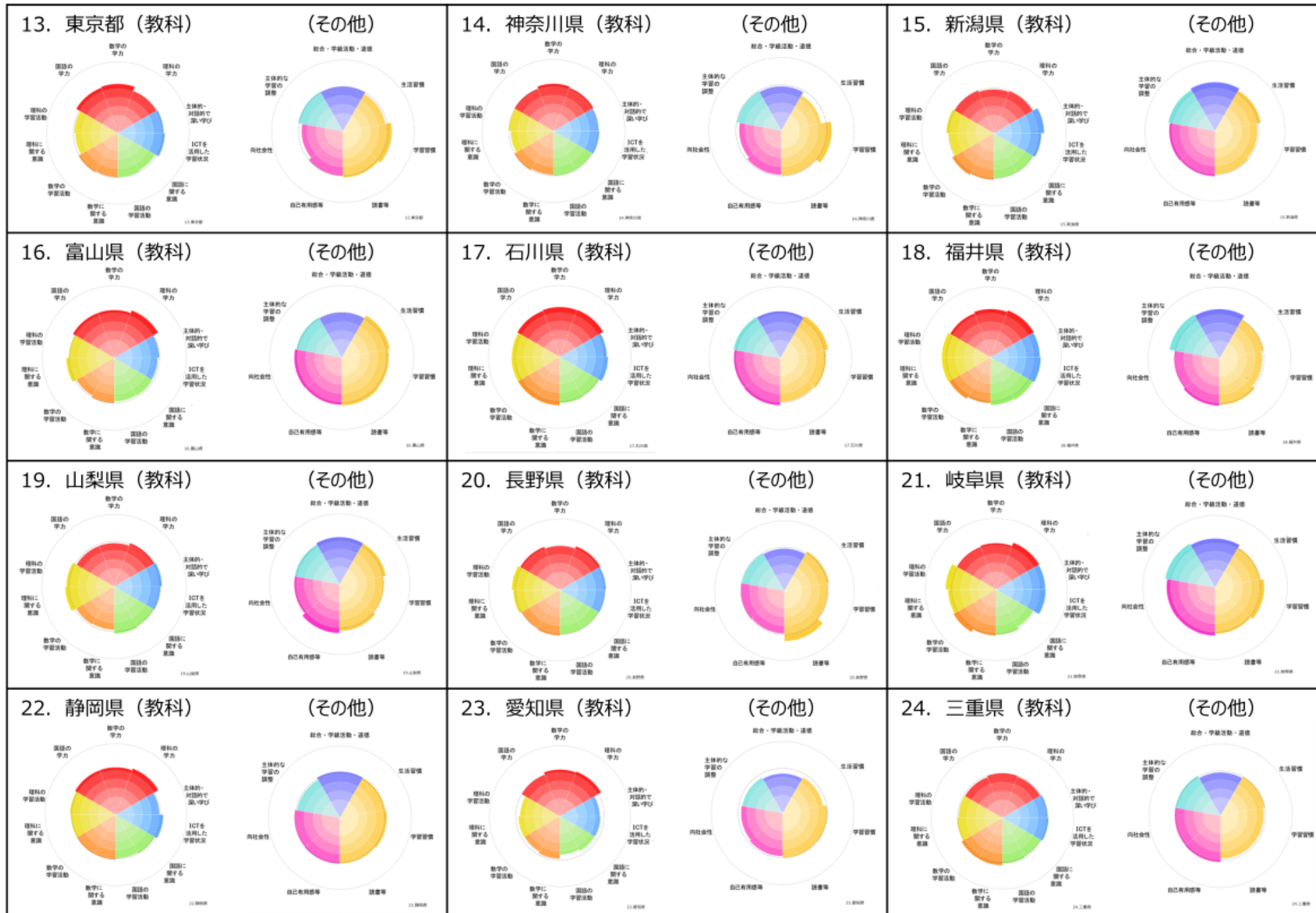
① 都道府県（指定都市を含む）別
結果チャート

中学校



①都道府県（指定都市を含む）別 結果チャート

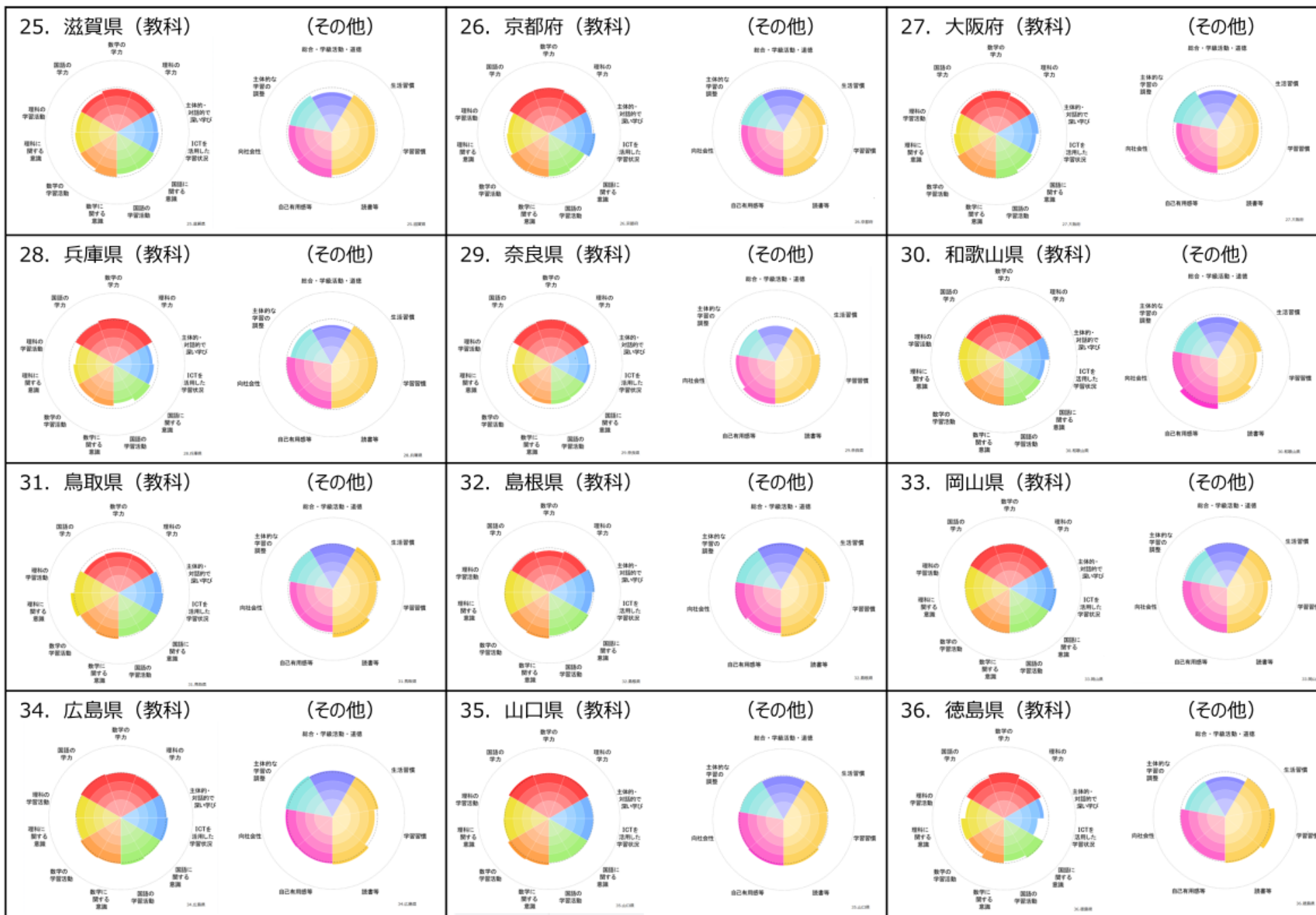
中学校

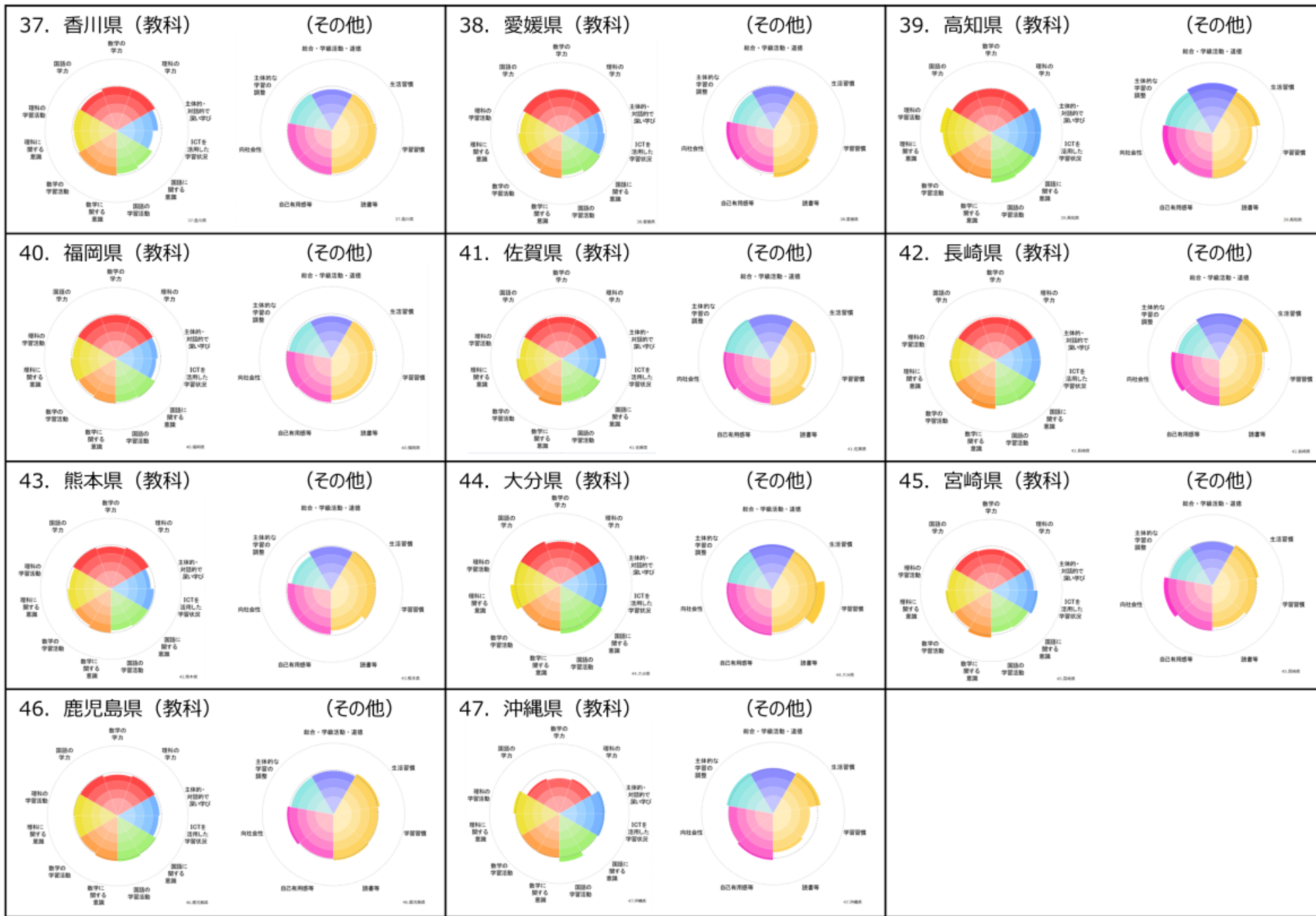


①都道府県（指定都市を含む）別
結果チャート

中学校

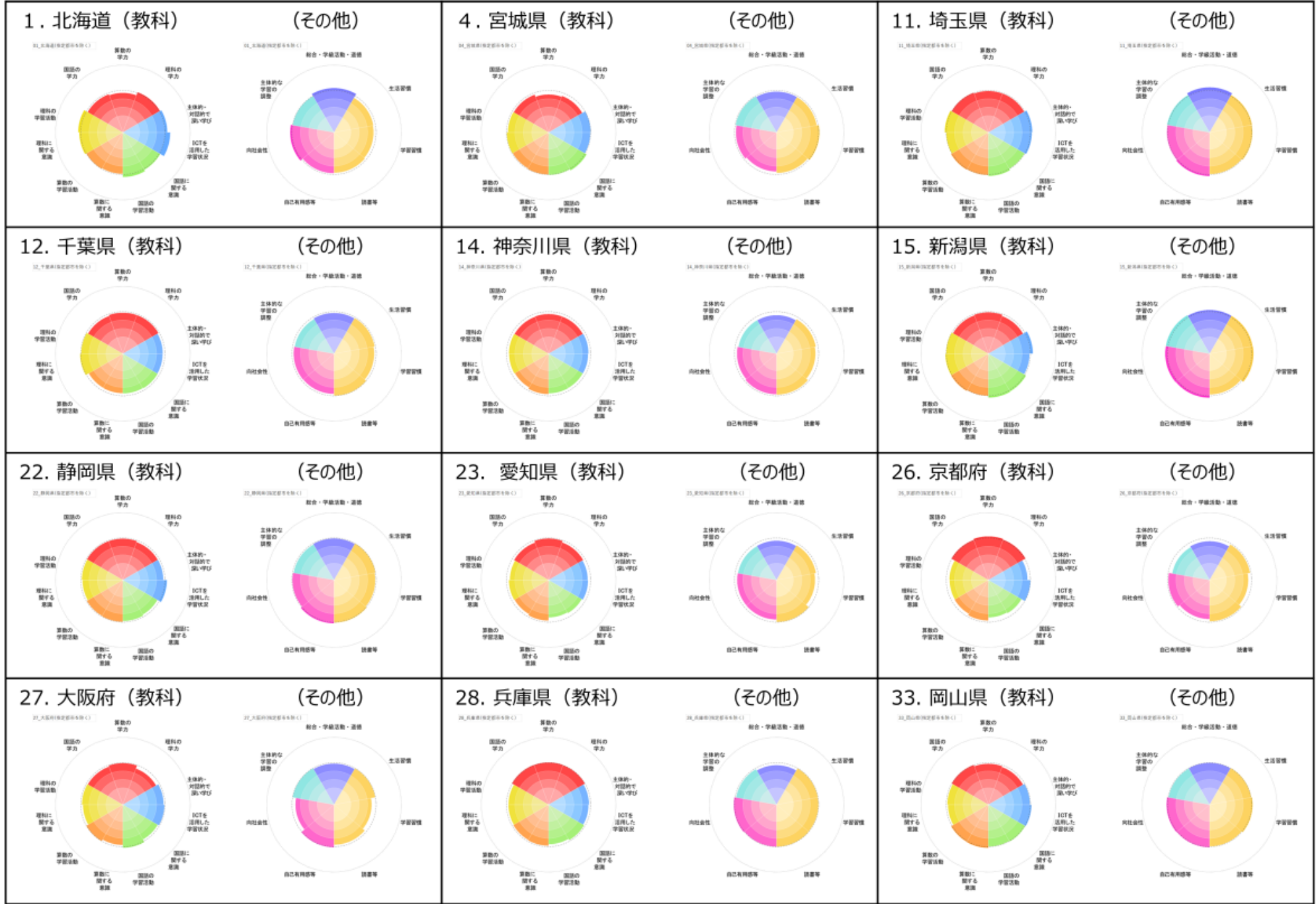
R7





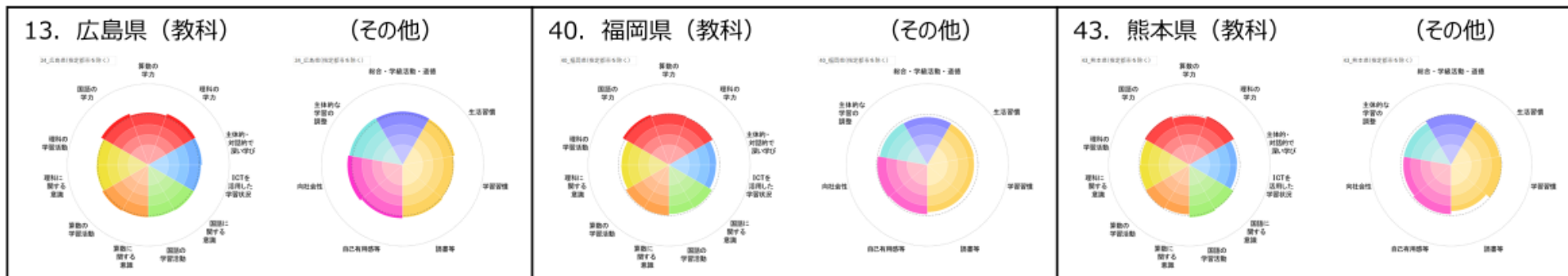
②都道府県（指定都市を除く）別
結果チャート

小学校



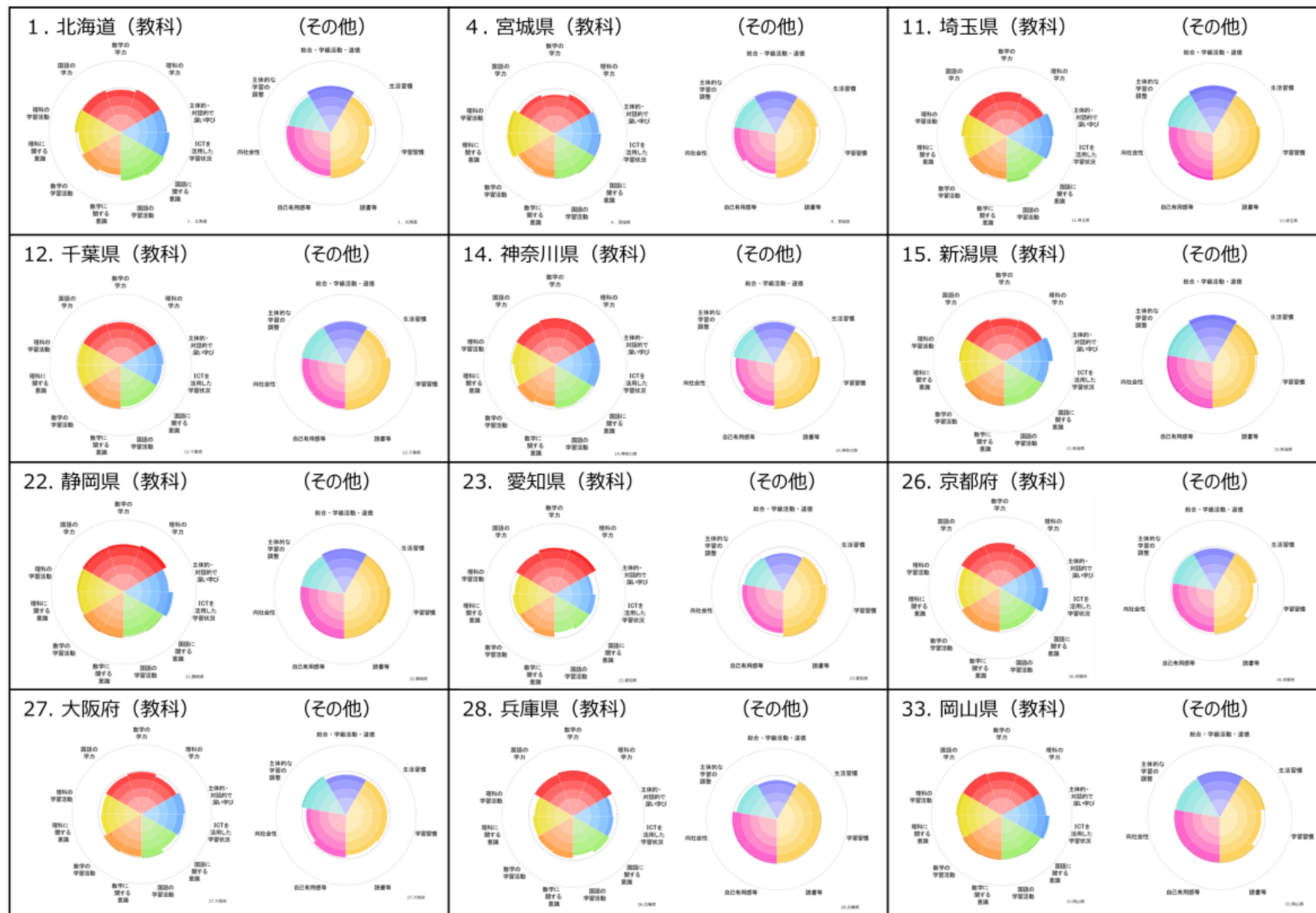
②都道府県（指定都市を除く）別 結果チャート

小学校



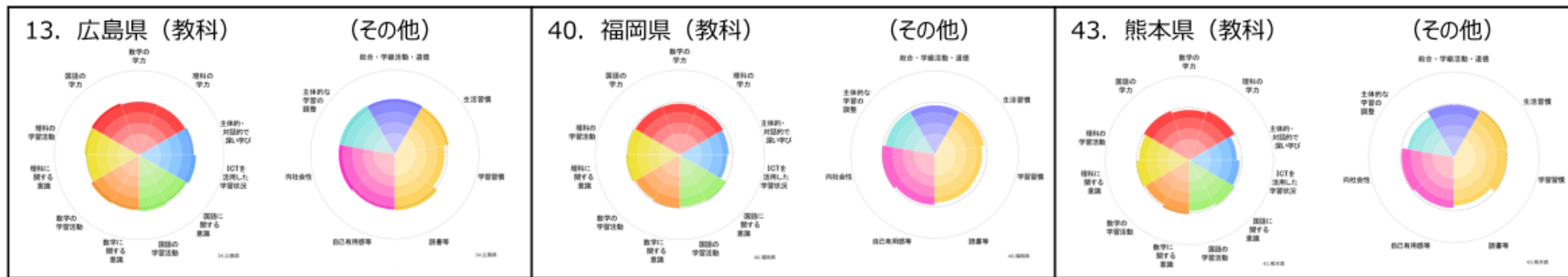
②都道府県（指定都市を除く）別 結果チャート

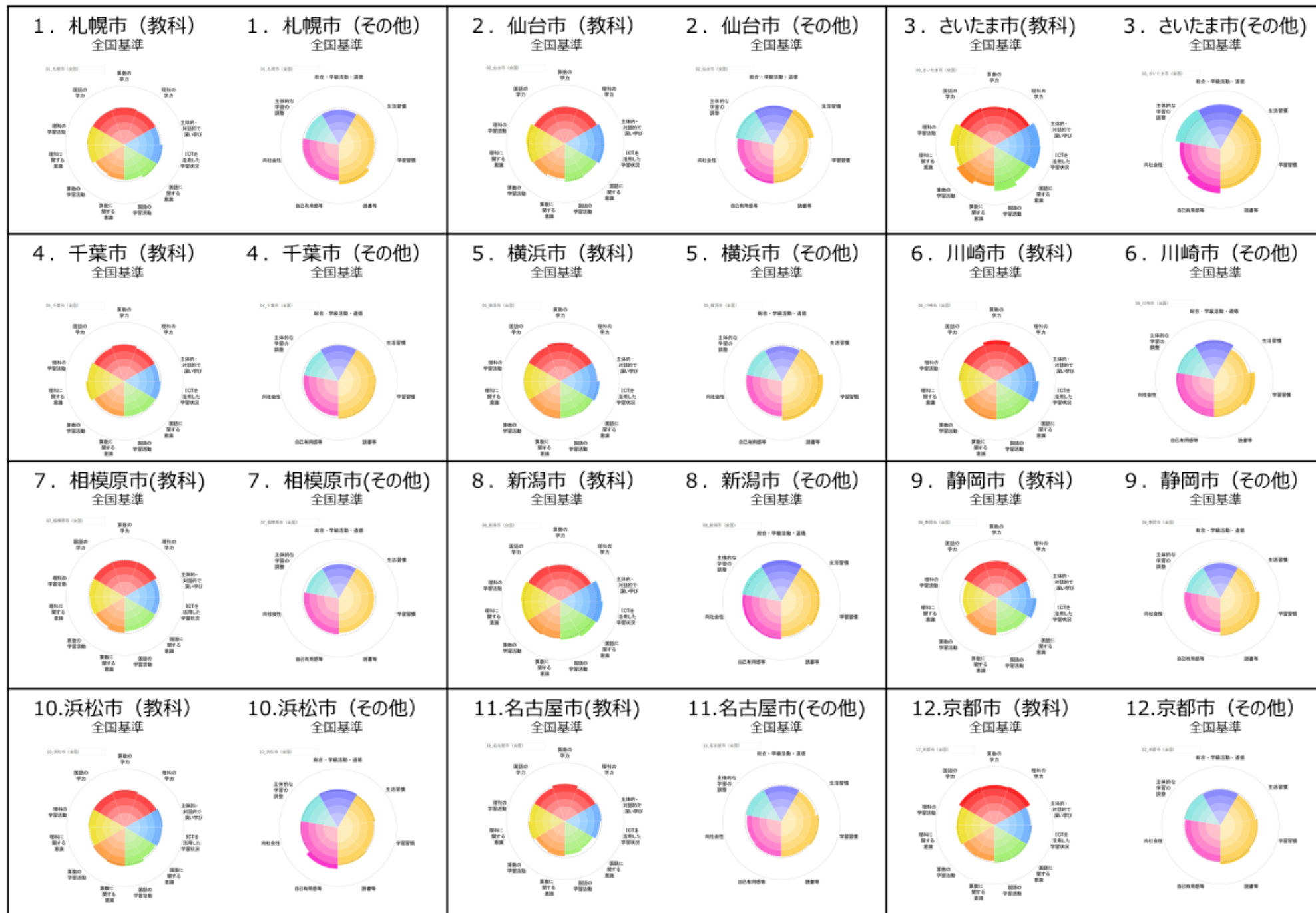
中学校

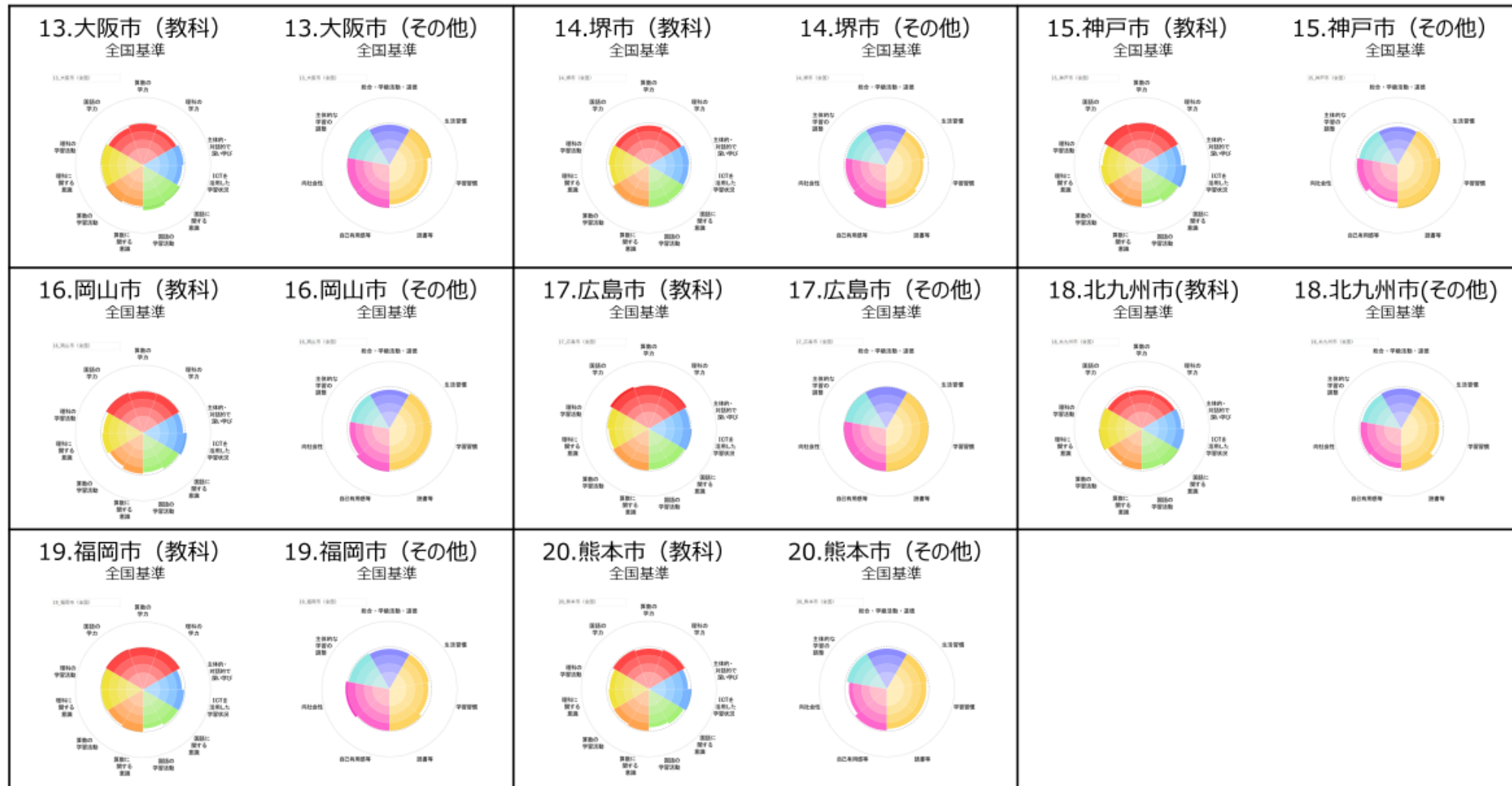


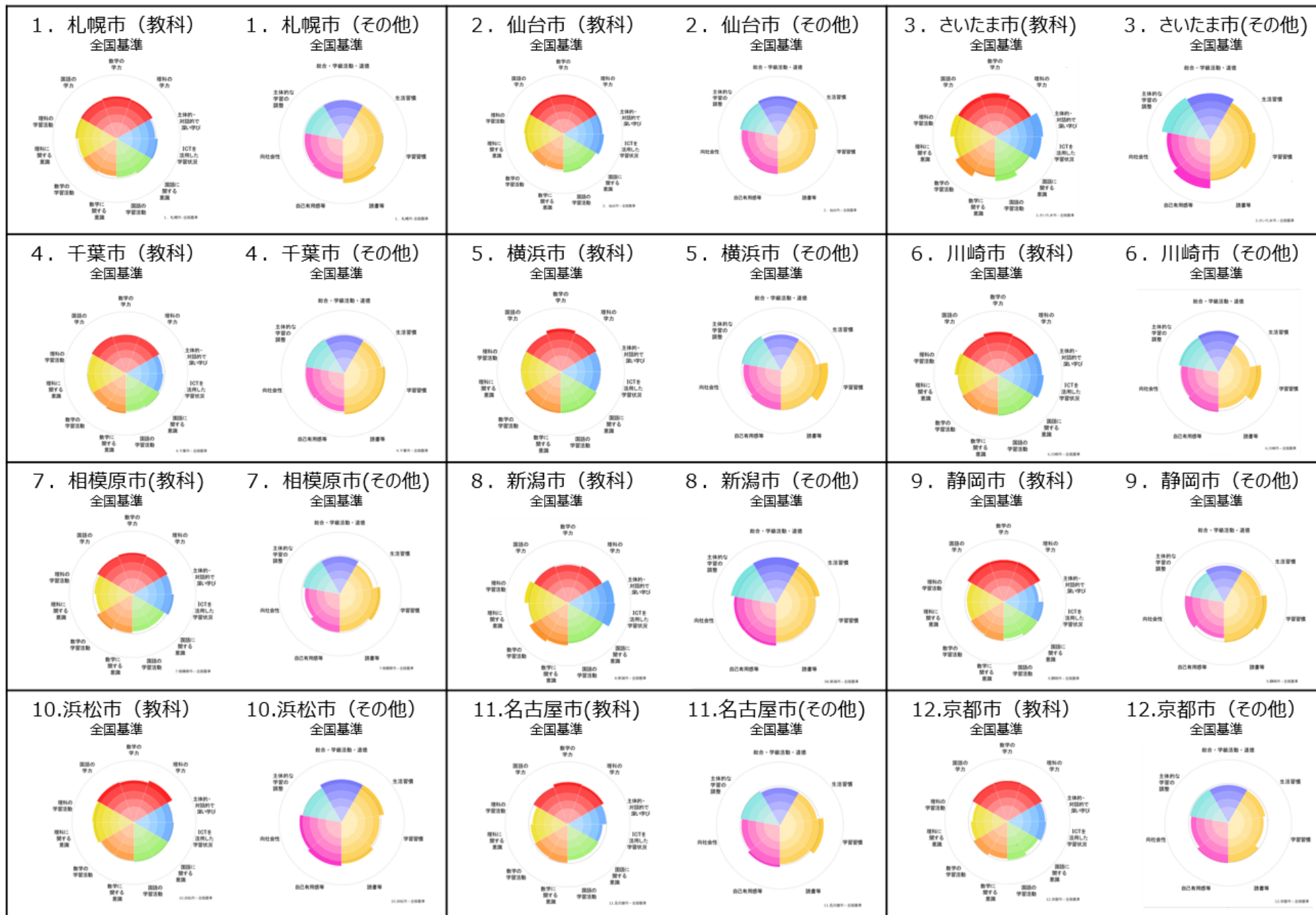
②都道府県（指定都市を除く）別
結果チャート

中学校





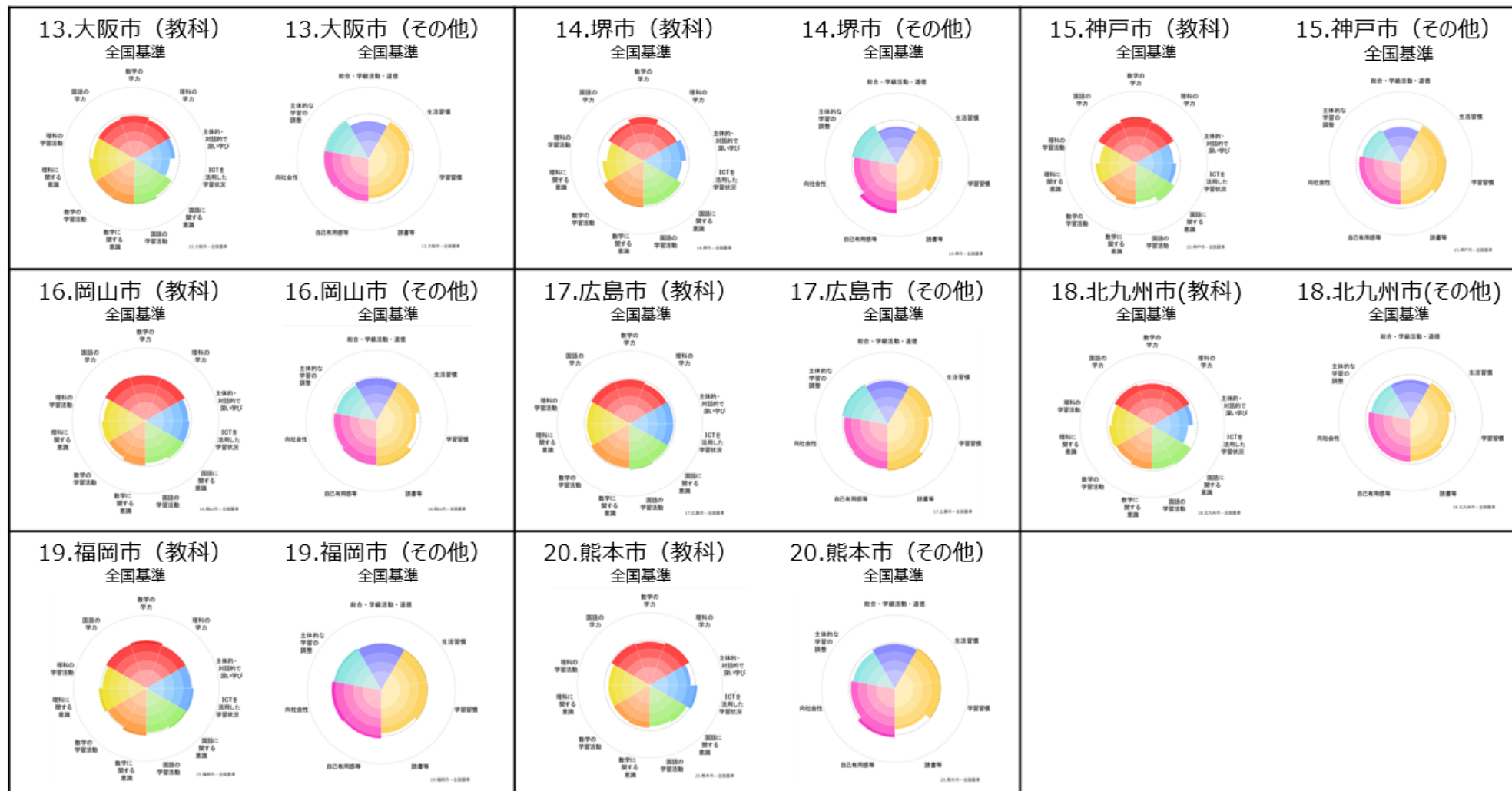




③指定都市別 結果チャート

R7

中学校



(3)都道府県（指定都市を含む）の散布図

領域

4 主体的・対話的で深い学び

児童生徒質問調査〔31〕～〔35〕
〔37〕〔39〕

R7

- 「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られる。

児童〔32〕
生徒〔32〕

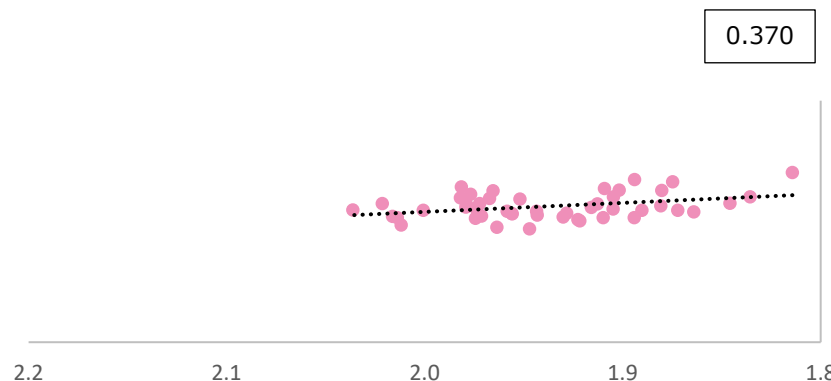
5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

※ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は破線)

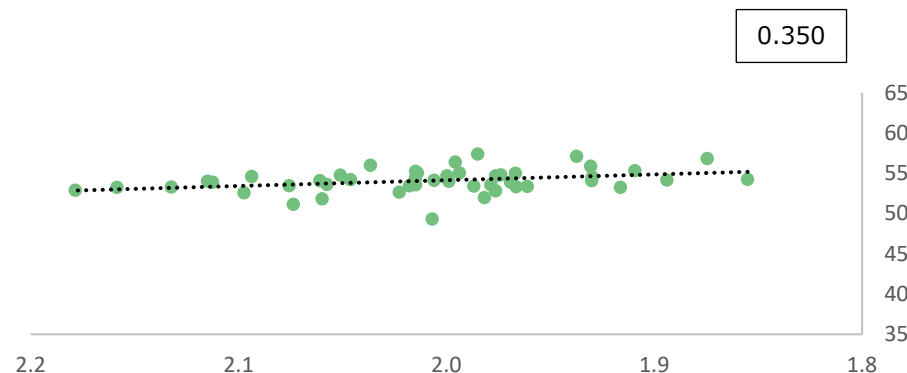
縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない（その他、無回答は除く））の平均

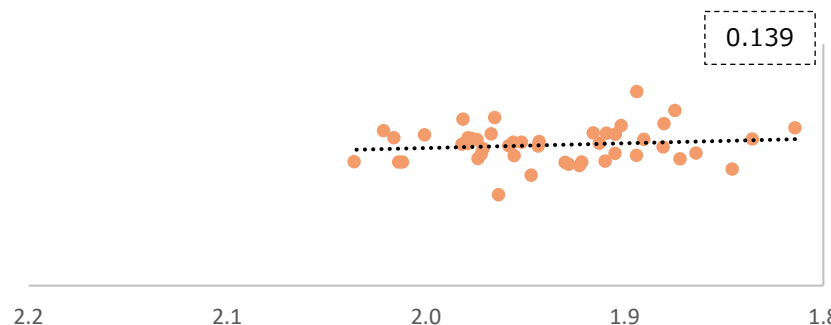
小
・
国語



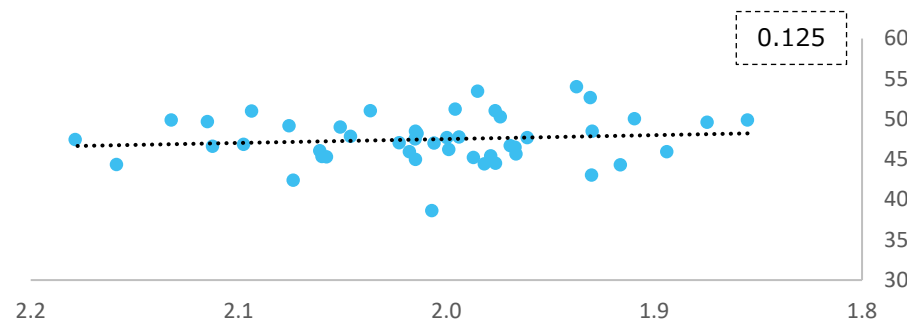
中
・
国語



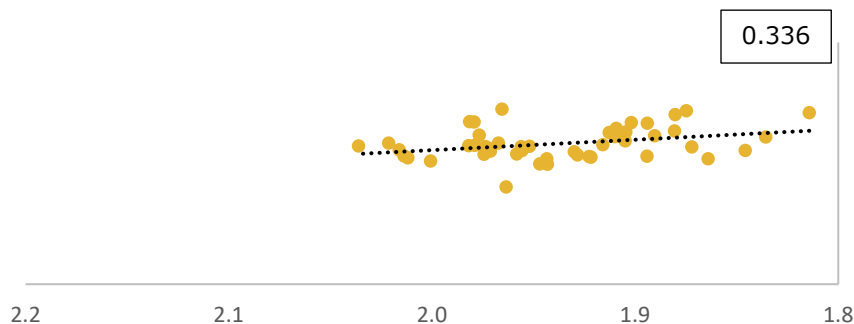
小
・
算数



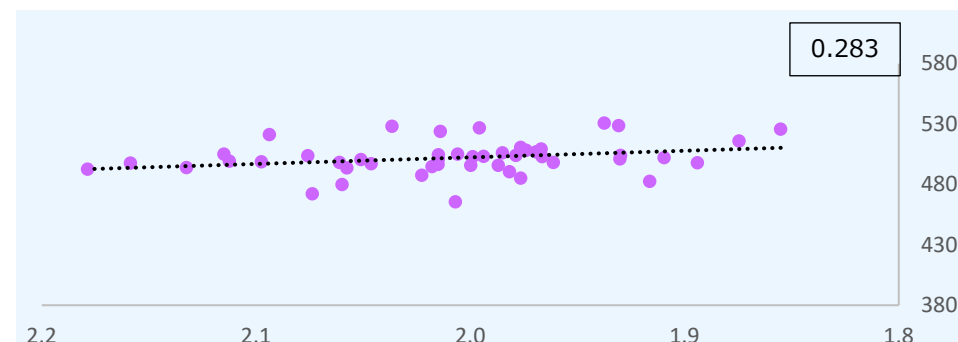
中
・
数学



小
・
理科



中
・
理科



「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の肯定的回答が多い。

「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の肯定的回答が多い。

- 「話し合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られる。

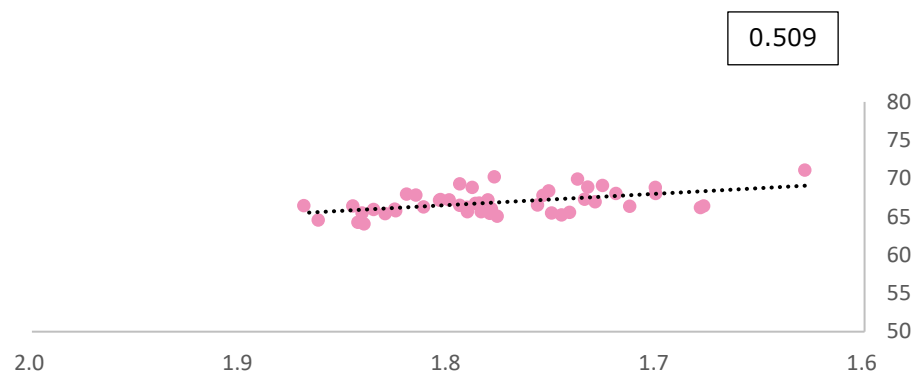
児童〔35〕 生徒〔35〕 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

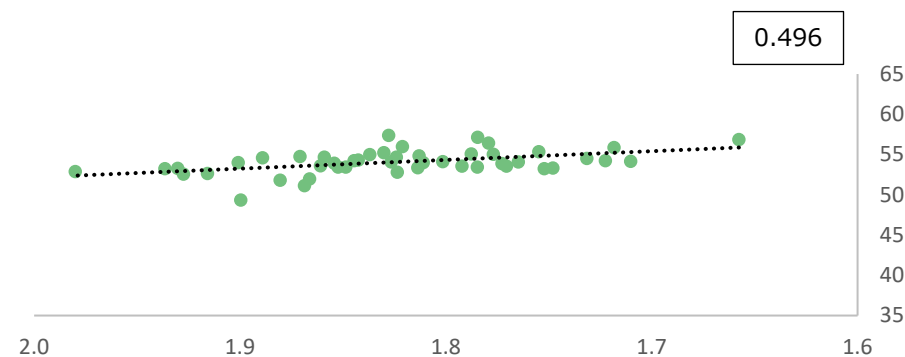
横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない 5 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない（その他、無回答は除く））の平均

※ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は破線)

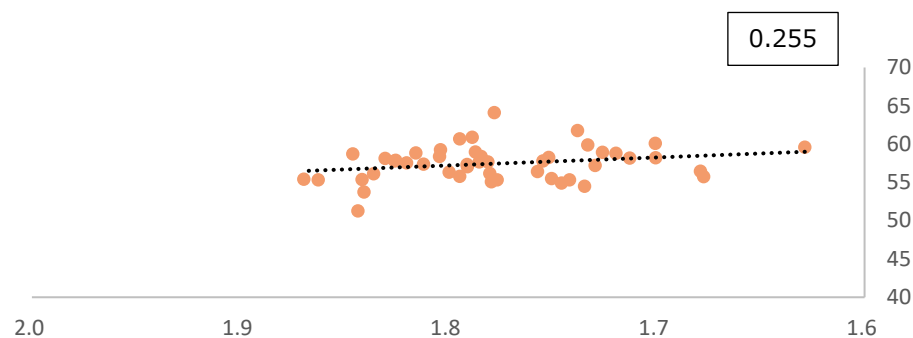
小
・
国
語



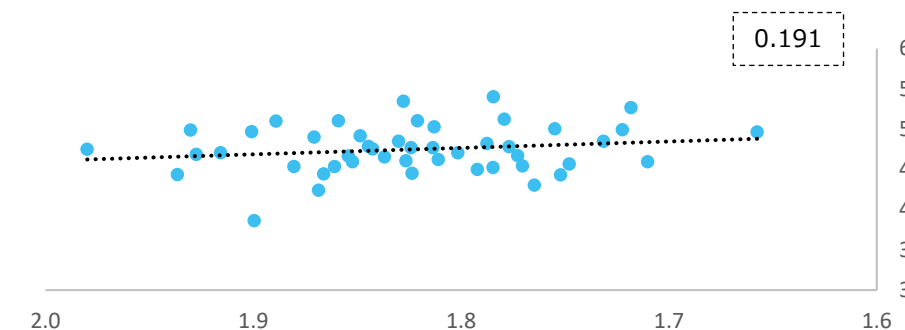
中
・
国
語



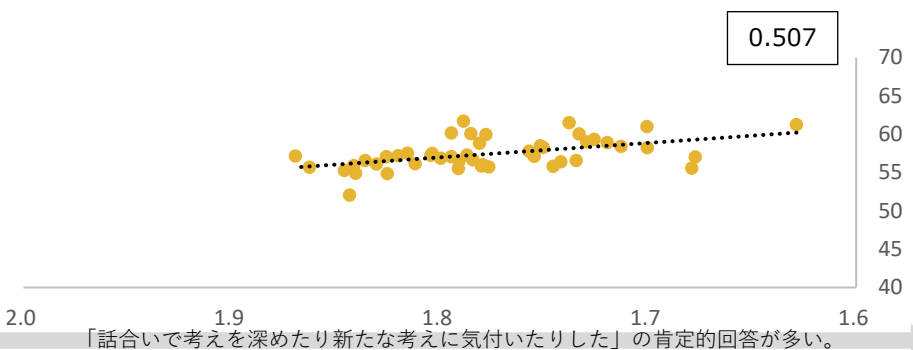
小
・
算
数



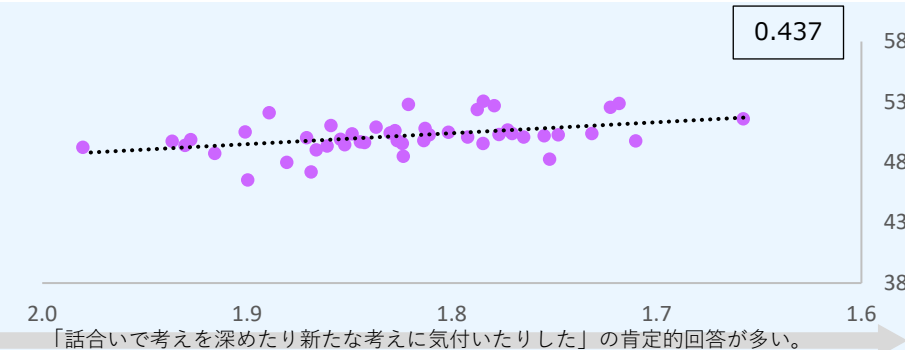
中
・
数
学



小
・
理
科



中
・
理
科



各都道府県の低SESグループでの学力層分布(算数・数学)

令和7年度全国学力・学習状況調査でも、SESが低いグループほど各教科の正答率が低い傾向が見られた。特に、小学校算数と中学校数学についてはSESにより差が見られた（令和7年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）P50より）。そのため、**47都道府県それぞれのSESが低いグループを取り出した上で各学力D層の割合や平均正答率を比較した**。SESが低くても学力D層の割合・平均正答率と主体的・対話的で深い学びの取組に一定の関係がみられた。

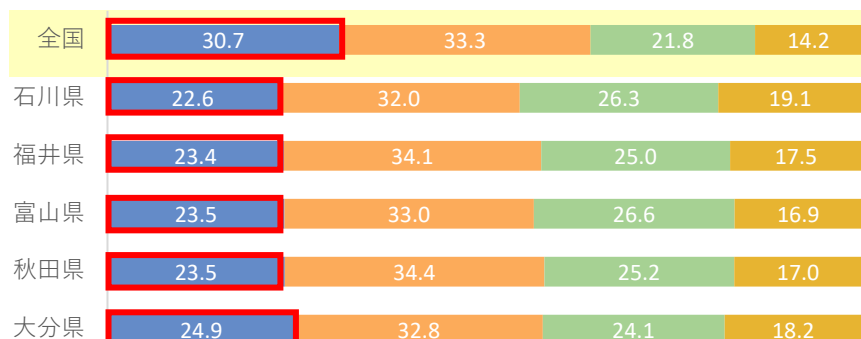
ポイント

低SESグループにおいて、学力D層の割合が全国と比べても少ない、又は学力D層の平均正答率が全国と比べても高い都道府県がみられた。

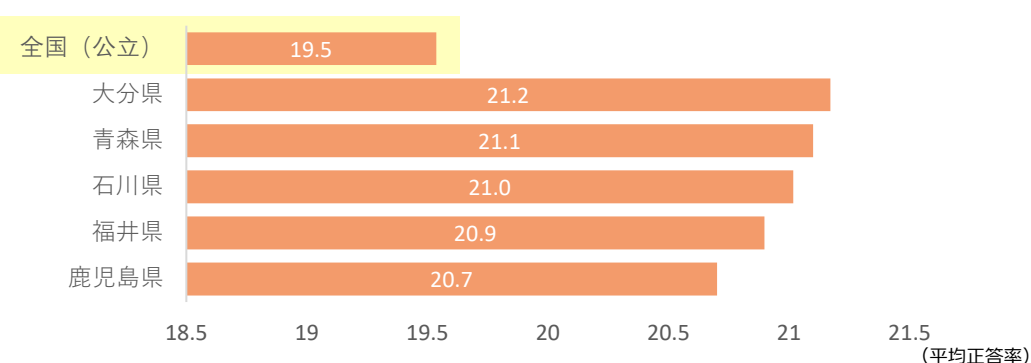
※SES（Socio-Economic Status）：社会経済的背景。本調査では、児童生徒質問調査〔22〕「家にある本の冊数」をSESの代替指標として利用（低SESグループ（0～25冊）、中SESグループ（26～100冊）、高SESグループ（101冊以上））。

低SESグループで学力D層の割合が少ない5都道府県

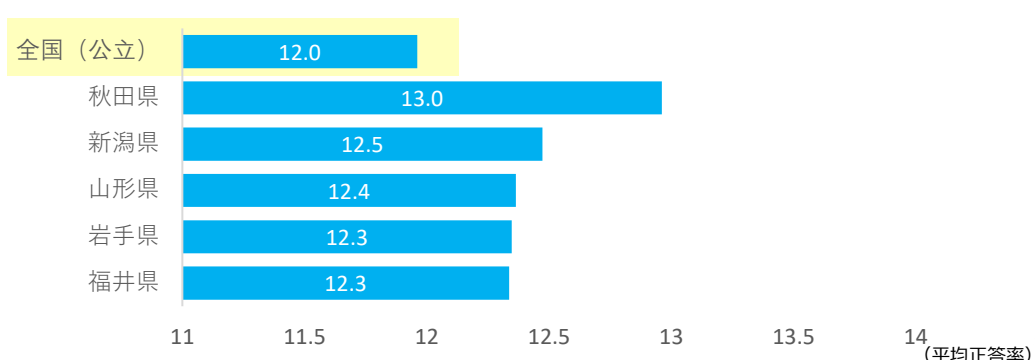
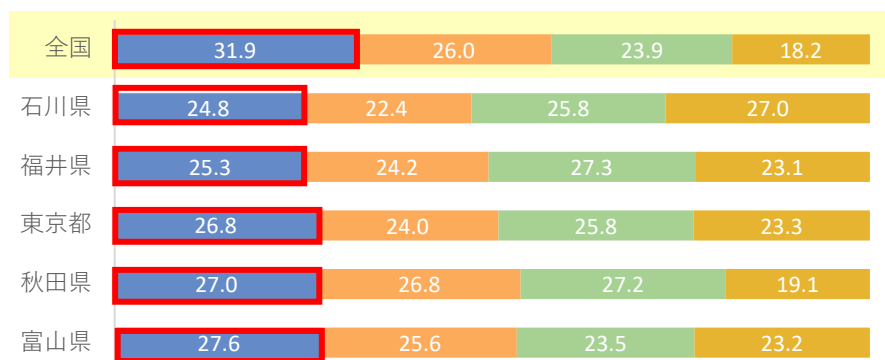
■ D層 (正答数0～5問) ■ C層 (正答数6～9問) ■ B層 (正答数10～12問) ■ A層 (正答数13～16問)



低SESグループで学力D層の平均正答率が高い5都道府県



■ D層 (正答数0～3問) ■ C層 (正答数4～6問) ■ B層 (正答数7～10問) ■ A層 (正答数11～15問)



小・算数

中・数学

「4 主体的・対話的で深い学び」に応じた低SESグループの学力D層の状況(算数・数学)

ポイント

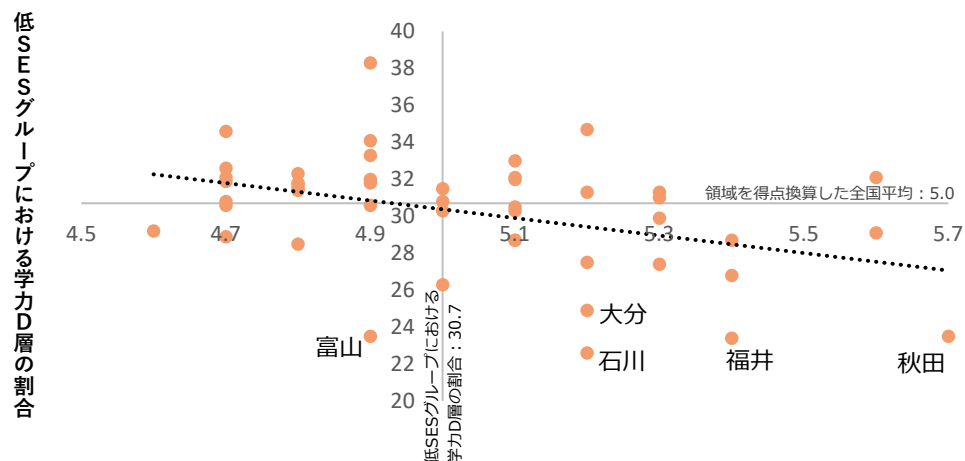
主体的・対話的で深い学びに取り組んだ都道府県ほど、低SESグループにおける学力D層の割合が少なく、学力D層の平均正答率が高い。

縦軸：低SESグループにおける学力D層の割合(左) 平均正答率(右)

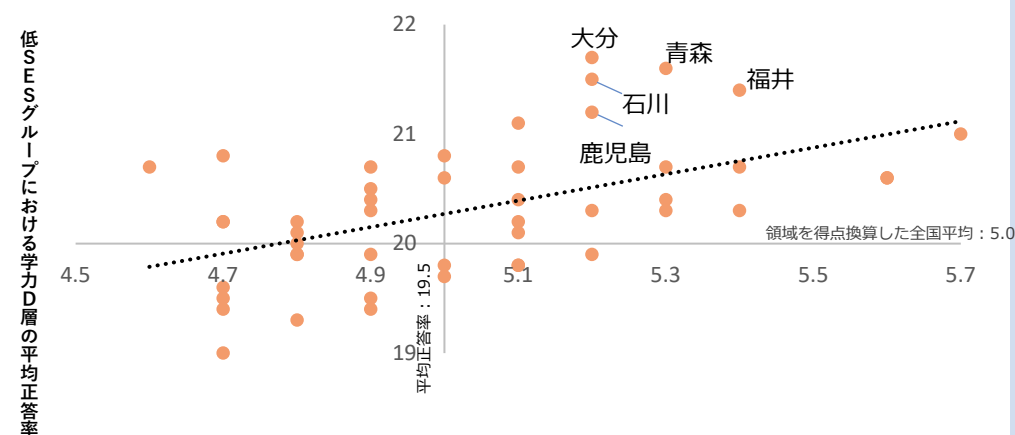
横軸：児童生徒質問調査の領域「4 主体的・対話的で深い学び」の回答状況を得点換算したもの(有効数字2桁)。

全国平均が5.0となるように標準化されており、その値が大きいほど、当該領域において肯定的な回答割合が高いことを意味している。

低SESグループの学力D層の割合

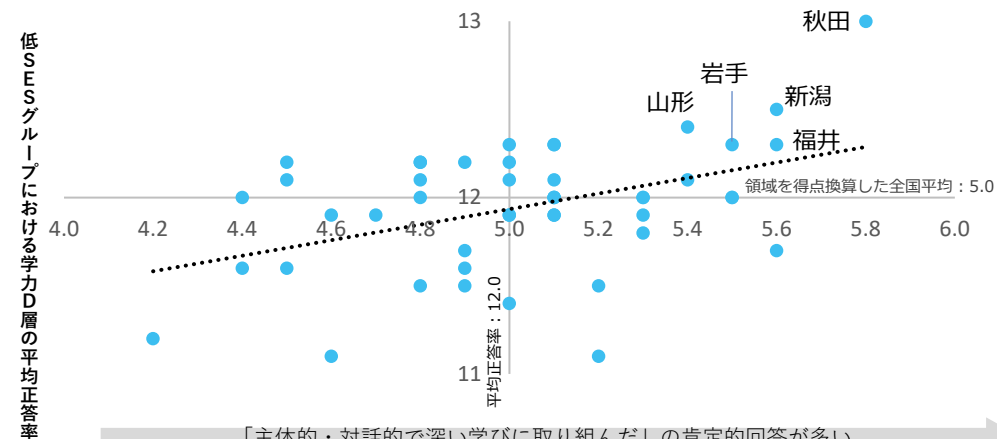
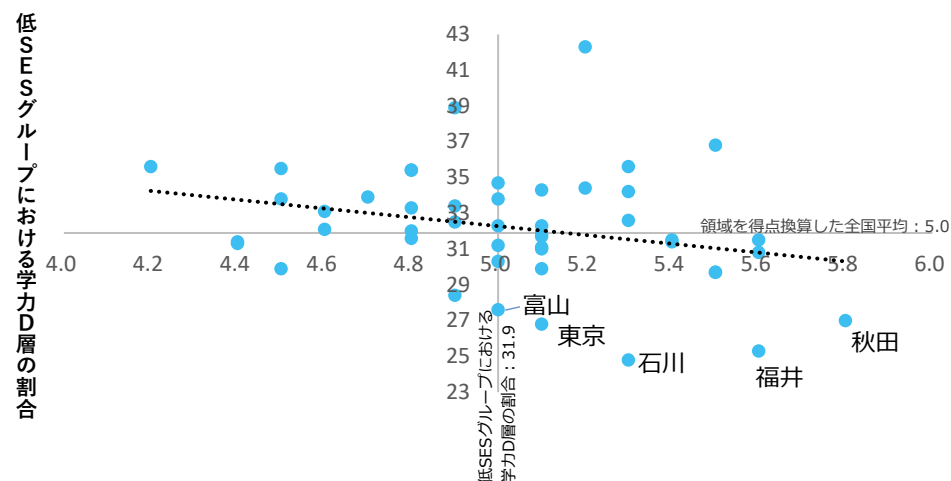


低SESグループの学力D層の平均正答率



小・算数

中・数学



「主体的・対話的で深い学びに取り組んだ」の肯定的回答が多い。

「主体的・対話的で深い学びに取り組んだ」の肯定的回答が多い。

【参考】家庭の社会経済的背景 (SES)と学校の取組に関する調査研究成果

保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究 (受託者：お茶の水女子大学) (H29)

- 平成29年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果を活用し、家庭の社会経済的背景(SES)と学力の関係等について分析している。また、学校がおかれている社会経済的背景(SES)に比べて、継続的に高い学力成果を上げている学校及び成果が上がりつつある学校の特徴も分析している。

〔継続的に高い学力成果を上げている学校の共通の取組〕

- ・ 家庭学習習慣の定着と家庭への啓発、一人も見逃さない個別指導
- ・ 若手とベテランが学び合う同僚性と学校の組織的な取組
- ・ 小中一貫教育による一貫した学習の構え
- ・ 言語活動や学習規律などを重視した授業改善の推進
- ・ 地域や保護者との良好な関係を基盤とした積極的な地域との連携
- ・ 学力調査の分析・活用による児童生徒一人ひとりの学力形成

〔成果を上げつつある学校の事例〕

＜学校の環境整備＞

児童生徒が学びに向かうことのできる環境を整える。

＜行政による条件整備＞

県と市からの各種の教師加配による、人員を増やす。

(直接効果) 3クラス4展開の少人数指導、学力調査の分析が可能となった。

(間接効果) 加配による新たな取組等に関して教育委員会との密接に連携により、教師集団の納得を得て、研究・研修面での新たな取組を促進することが可能になった。

＜校長のリーダーシップ＞

原因を見極め、方向付ける。

学習指導の改革以前に、生徒・保護者との信頼関係の回復を図る努力が奏功。動く教師から動かす、教師集団への指針の提示と対話（繰り返し訴える）。

(参考) 平成29年度文部科学省委託事業「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」
保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究 (受託者：お茶の水女子大学)

☞ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1406895.htm



保護者に対する調査の結果を活用した効果的な学校等の取組やコロナ禍における児童生徒の学習環境に関する調査研究 (受託者：お茶の水女子大学) (R4)

- 令和3年度（および過年度）の全国学力・学習状況調査における保護者に対する調査や本体調査の結果等を活用し、社会経済的背景の不利を克服している家庭、学校、教育委員会等について分析している。

〔SESの低い層において学力面で成果を上げている学校の取組〕

- ・ 個々の子どもに寄り添い、出来るまでやりきらせる基礎基本の徹底
- ・ 子どもが主体的に学習に取り組むための授業の流れ（授業スタンダード）の校内での共有
- ・ 家庭学習、とくに自主学習の良い取組の成果を校内で共有
- ・ 小中連携、小中一貫教育の取組
→子どもの交流の意義、子どもの自己理解を促す意義、教師の合同研修により子どもの情報を途切れずに把握・共有する意義
- ・ 校内研修・研究を「自校のもの」とする認識の高さ
- ・ 教師が日頃から子どものことを話しやすい関係性を生み出す工夫
- ・ 特別支援教育の理解の共有。福祉面での配慮が必要な場合には外部専門家と積極的に連携
- ・ 校内の教員間で様々な情報・事態を日常的に共有しやすい環境・同僚性の高さ

〔SESの低い層において学力面で成果を上げている教育委員会の取組〕

- ・ 全国学力・学習状況調査を検証する組織の設置（平成27年頃～）
←学力向上に向けた授業改善のアイデアを検討し提供
- ・ 学習指導要領（「主体的、対話的で深い学び」）のコンセプトを実現するための授業アイデアや授業スタンダード等の提供
- ・ 地域住民に向けた教育委員会の取組の広報活動
- ・ 予算措置を必要とする手厚い人的支援

(参考) 令和4年度文部科学省委託事業「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」
保護者に対する調査の結果を活用した効果的な学校等の取組やコロナ禍における児童生徒の学習環境に関する調査研究
(受託者：お茶の水女子大学)

☞ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00008.html



- 「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られる。

児童〔29-2〕
生徒〔29-2〕

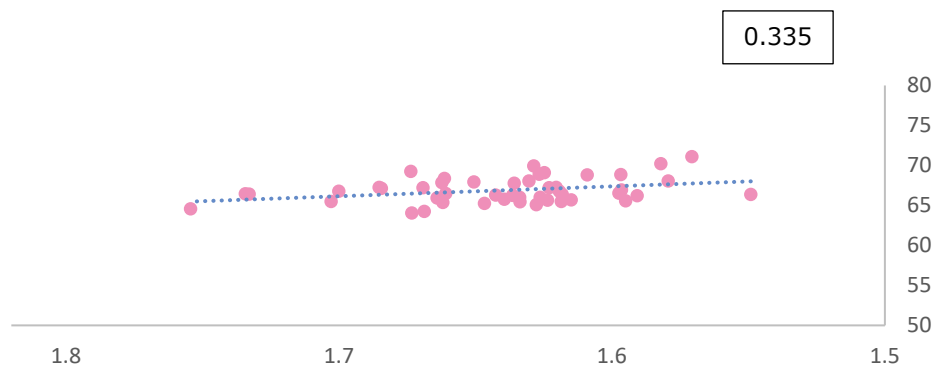
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

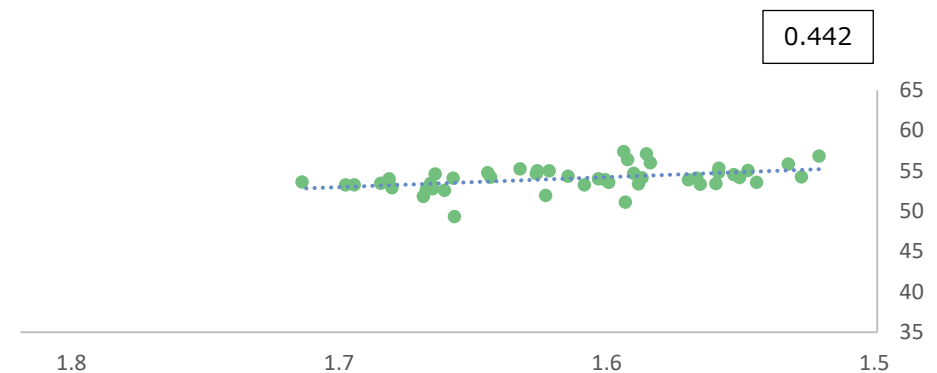
横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 とても思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない（その他、無回答は除く））の平均

※ 0.335 内の数字は相関係数

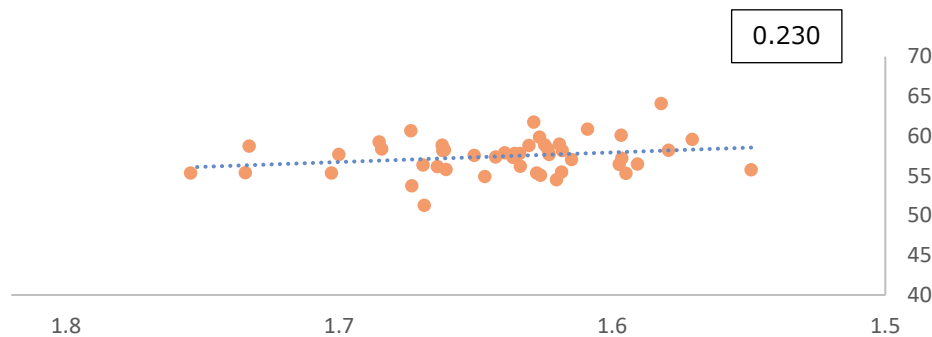
小
・
国
語



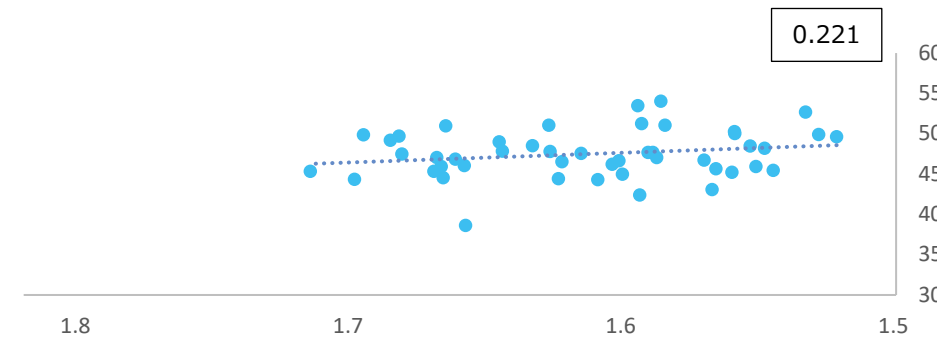
中
・
国
語



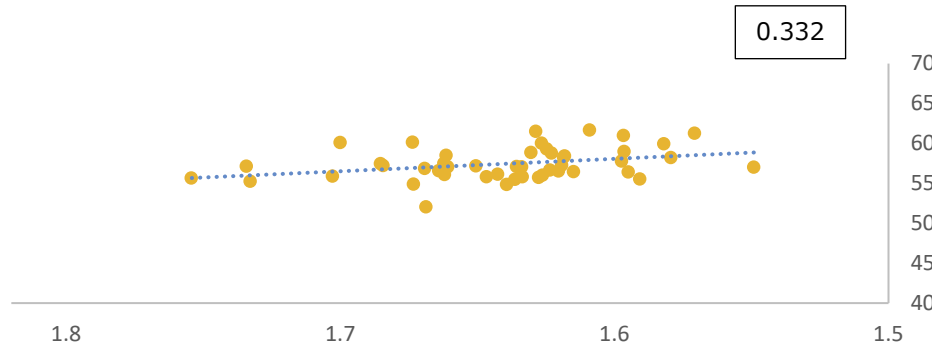
小
・
算
数



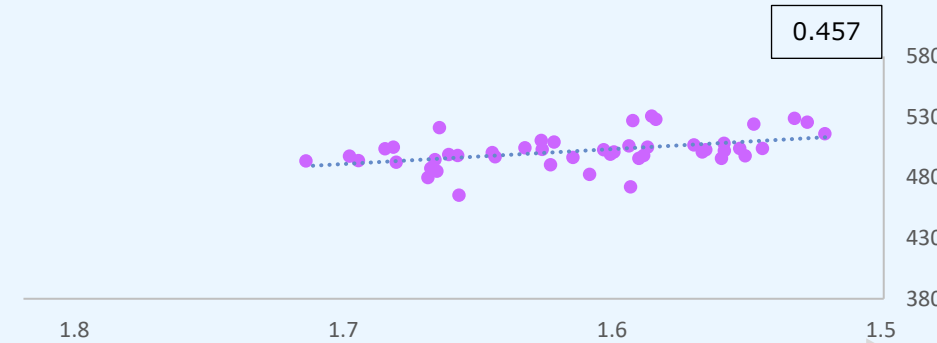
中
・
数
学



小
・
理
科



中
・
理
科



「インターネットを使って情報を収集することができる」の肯定的回答が多い。

「インターネットを使って情報を収集することができる」の肯定的回答が多い。

- 「ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られる。

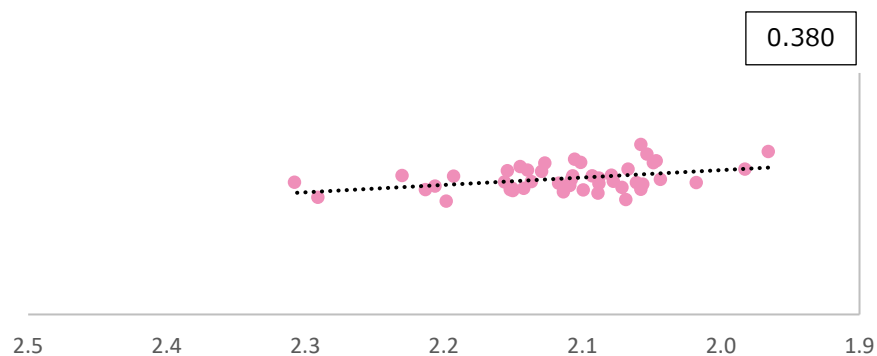
児童〔29-3〕 生徒〔29-3〕 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

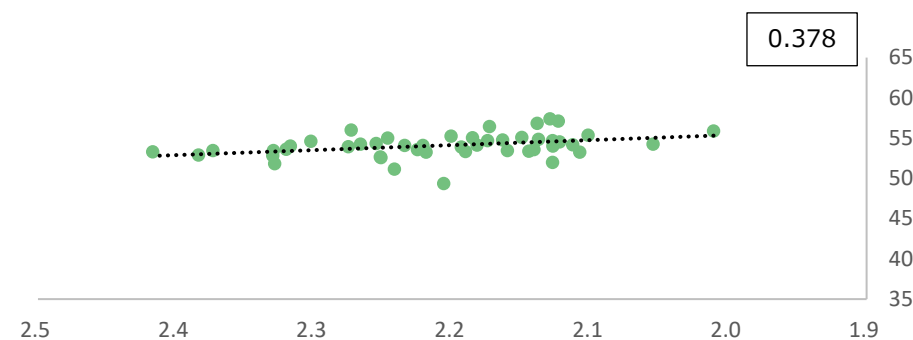
横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない（その他、無回答は除く））の平均

※ 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は破線)

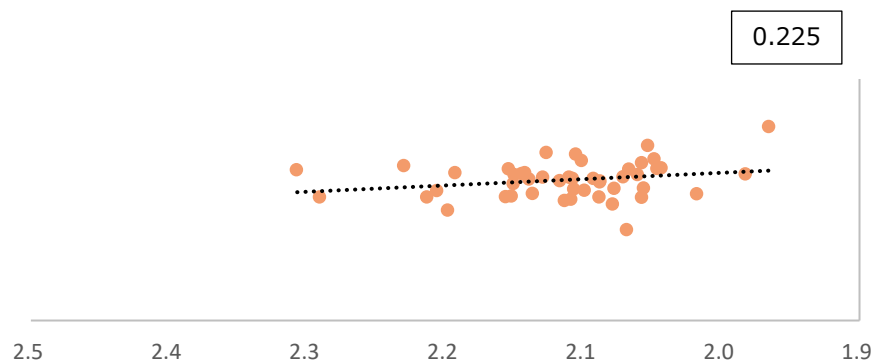
小
・
国
語



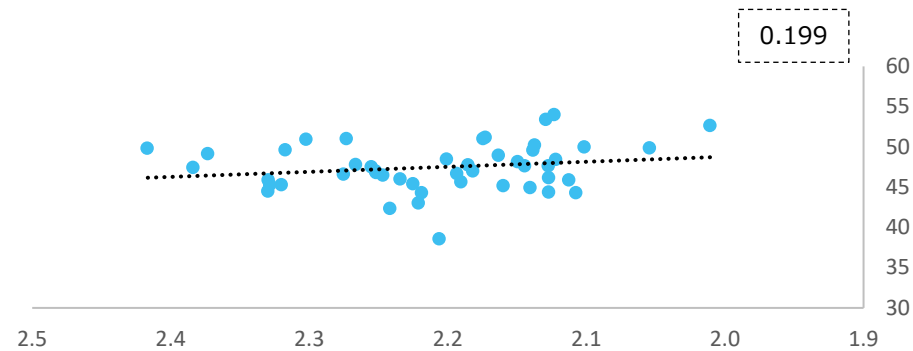
中
・
国
語



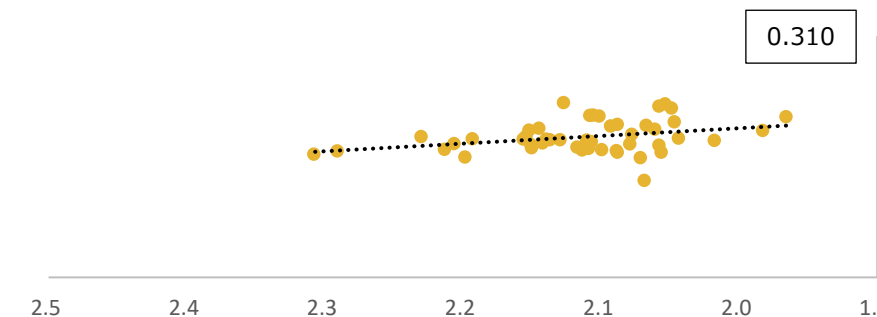
小
・
算
数



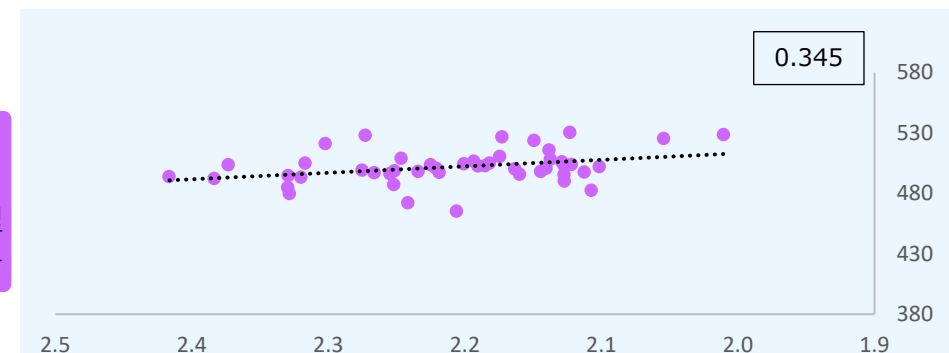
中
・
数
学



小
・
理
科



中
・
理
科



「ICT機器を使って情報を整理できる」の肯定的回答が多い。

「ICT機器を使って情報を整理できる」の肯定的回答が多い。

- 「平日の学校外での1日当たりの勉強時間」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られる。

児童〔17〕
生徒〔17〕

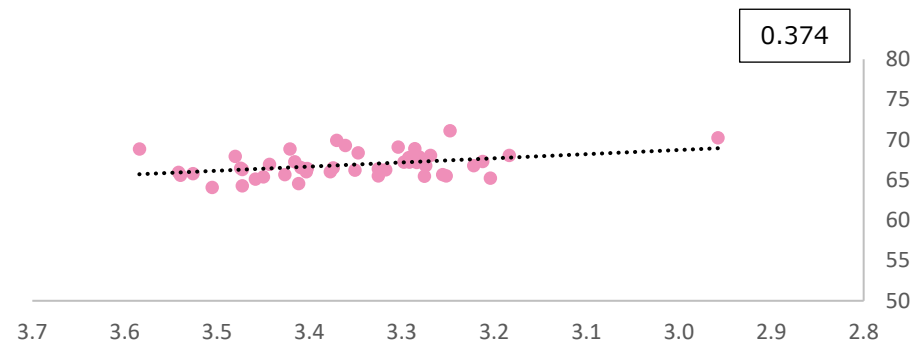
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

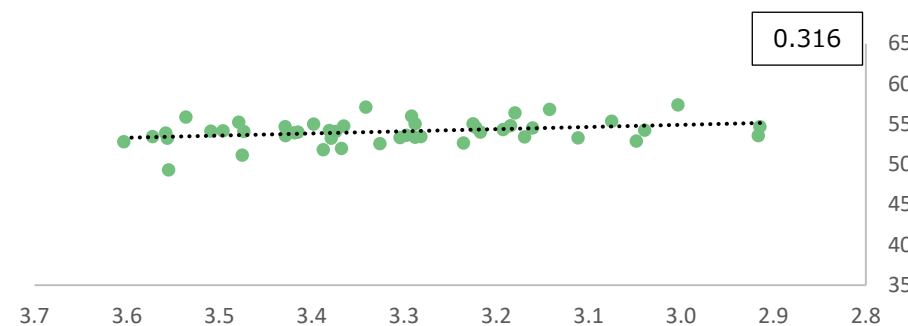
横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない（その他、無回答は除く））の平均

※ 内の数字は相関係数

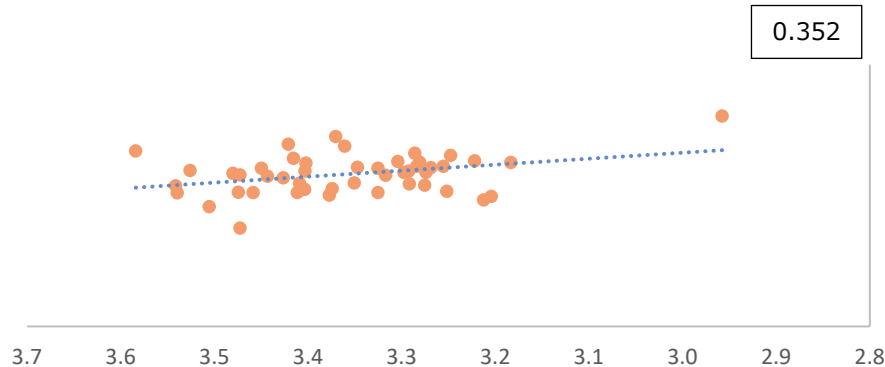
小・国語



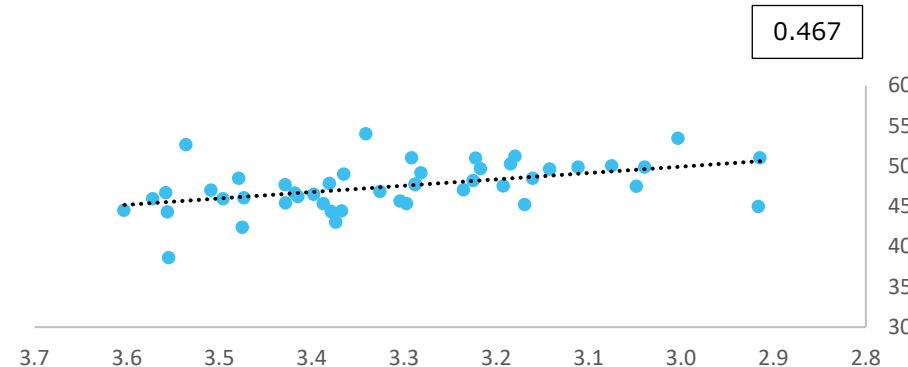
中・国語



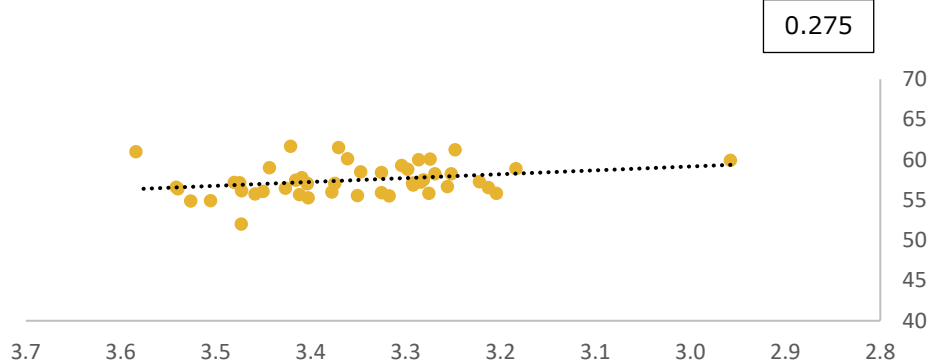
小・算数



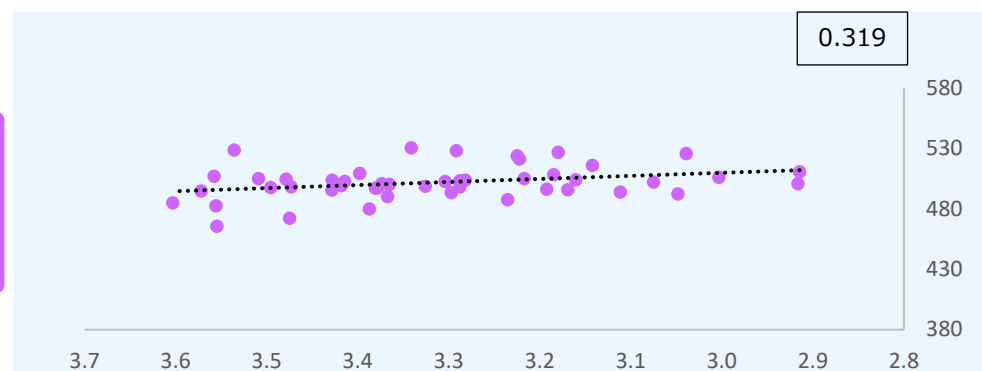
中・数学



小・理科



中・理科



「平日の学校外での勉強時間」が長い。

「平日の学校外での勉強時間」が長い。

- 「休日の1日当たりの勉強時間」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られる。

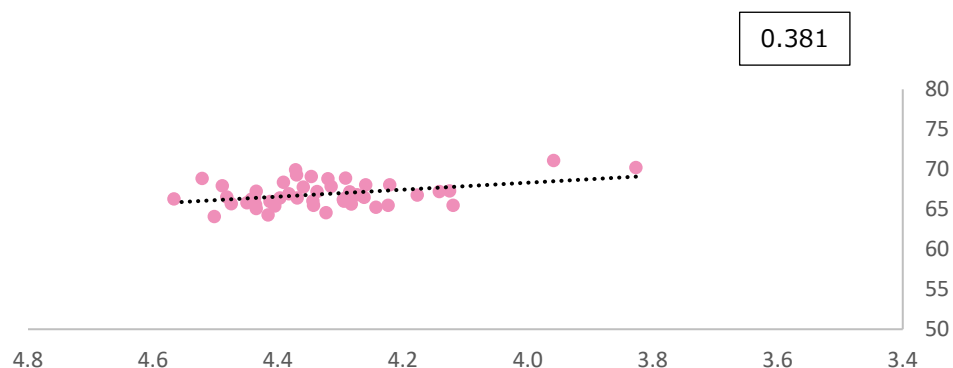
児童〔19〕 生徒〔19〕 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

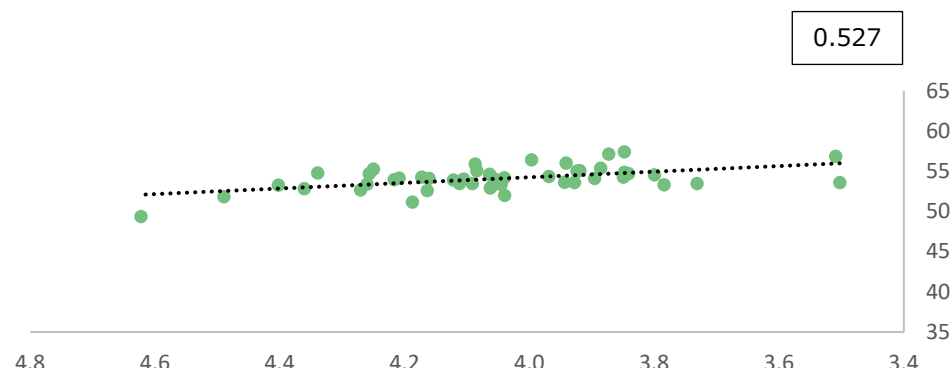
横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない 4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない（その他、無回答は除く））の平均

※ 0.381 内の数字は相関係数

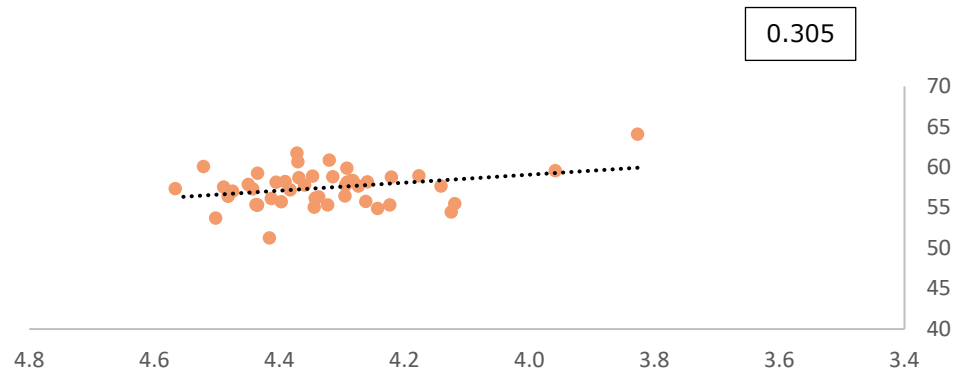
小・国語



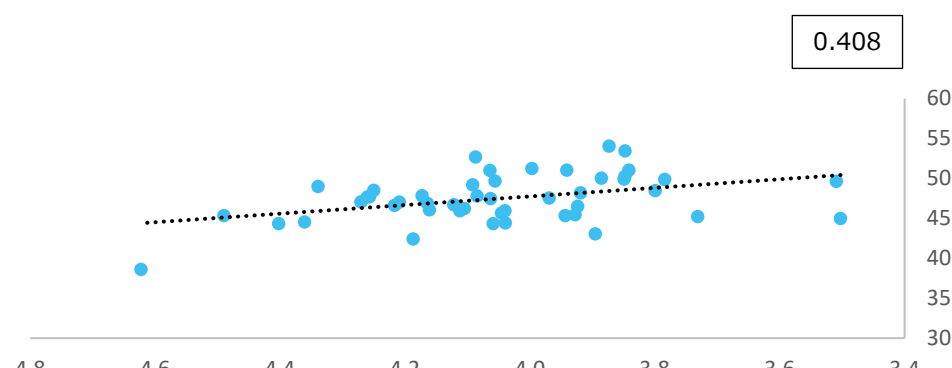
中・国語



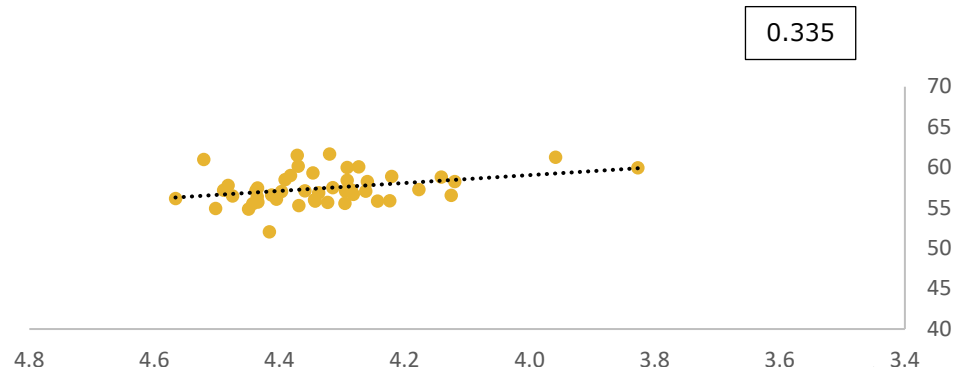
小・算数



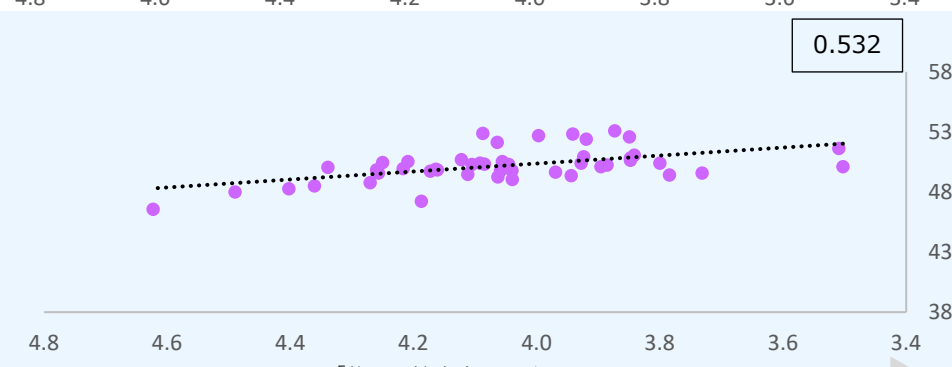
中・数学



小・理科



中・理科



「休日の勉強時間」が長い。

「休日の勉強時間」が長い。

- 「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」の設問と各教科の平均正答率・スコアとの間には相関が見られる。

児童〔16〕
生徒〔16〕

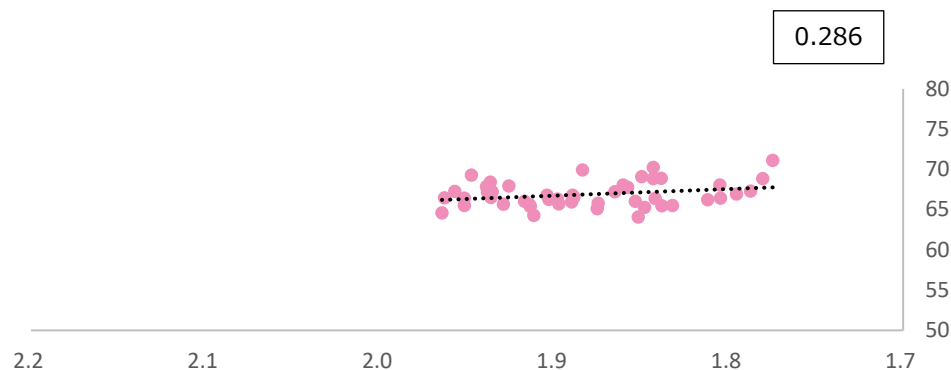
分からないことやくわ〔詳〕しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

縦軸：平均正答率・平均IRTスコア

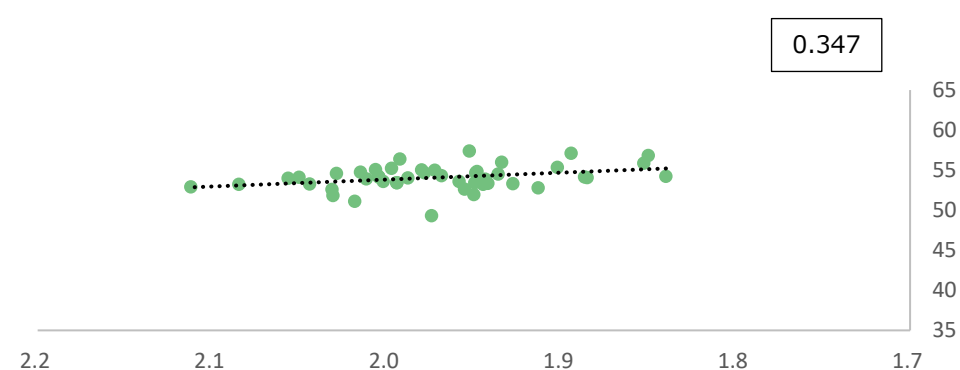
横軸：児童生徒質問調査の選択肢番号（1 できている 2 どちらかといえば、できている 3 どちらかといえば、できていない 4 できていない
（その他、無回答は除く））の平均

※ 0.286 内の数字は相関係数
(0.2未満の場合は破線)

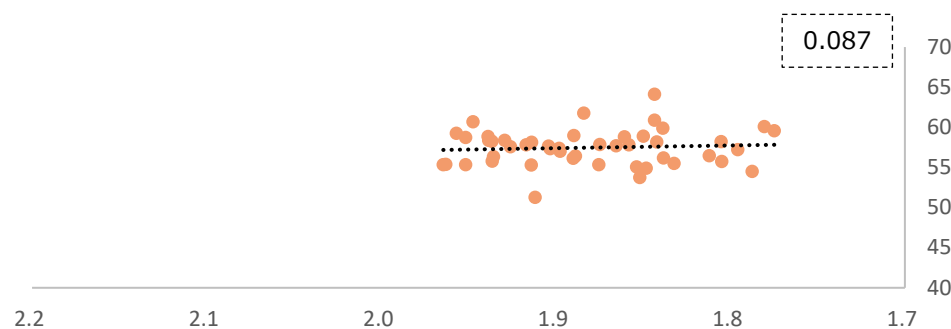
小
・
国
語



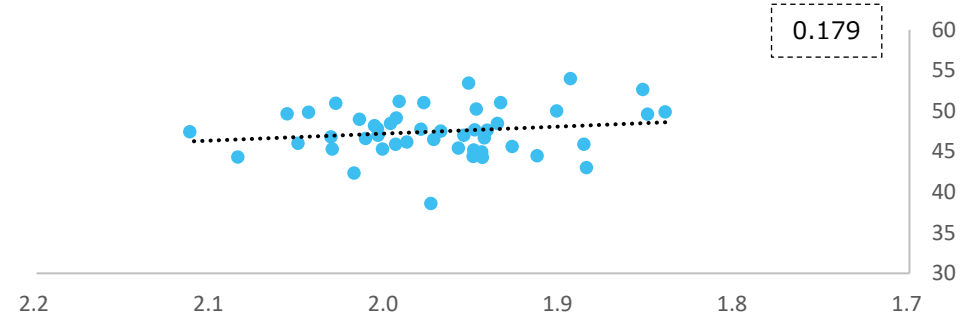
中
・
国
語



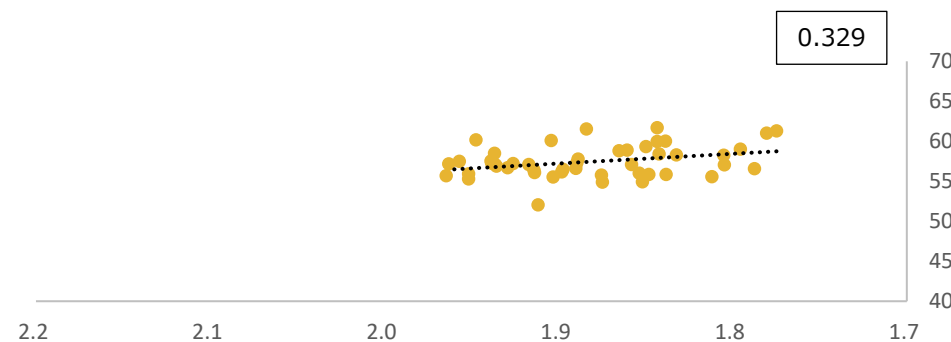
小
・
算
数



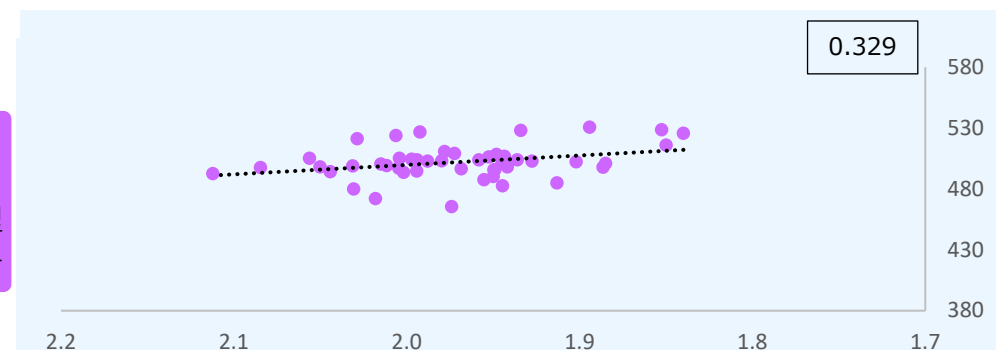
中
・
数
学



小
・
理
科



中
・
理
科

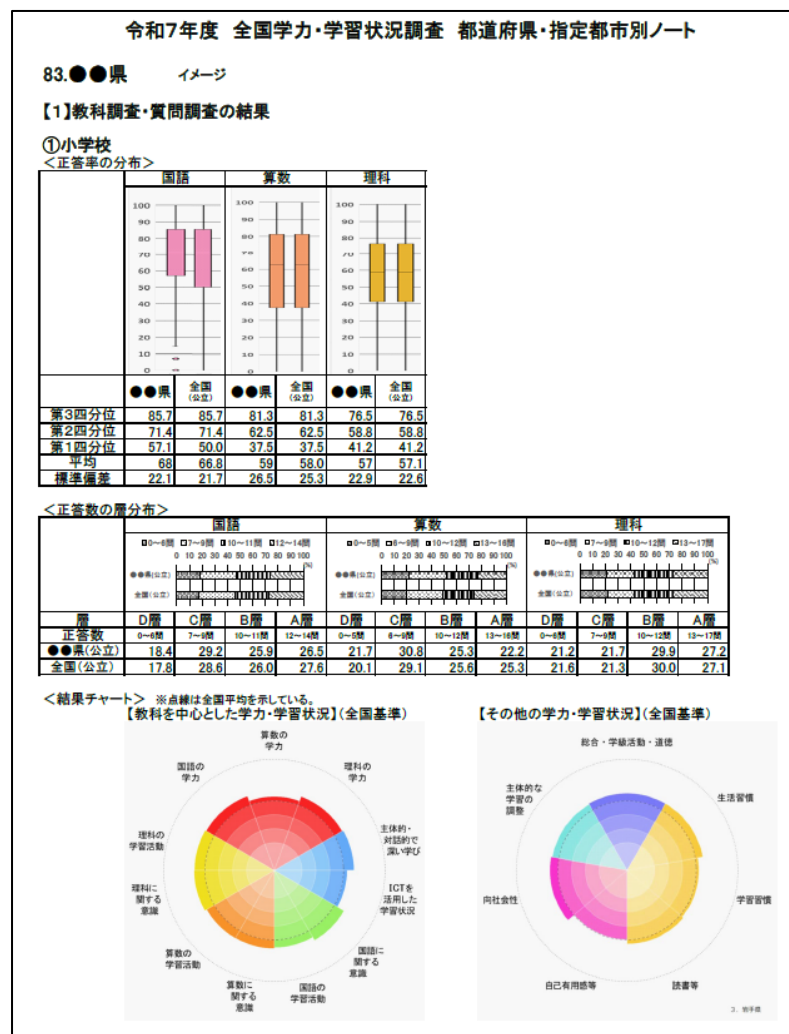


「自分で学び方を考え、工夫することができる」の肯定的回答が多い。

「自分で学び方を考え、工夫することができる」の肯定的回答が多い。

- 令和7年度調査においては、都道府県・指定都市別結果等について、文章で説明する「都道府県・指定都市別ノート」を試行的に作成して公表する。

ノートのイメージ



【2】全体の特徴

- 全教科、全国的なばらつき傾向と大きな差は見られなかった。
- D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 教科・●●教科について、全国の結果と比較して、D層の割合、バンド1の割合が多い結果となっている。他の教科について、D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 小学校(中学校)においては、「●●」や「●●」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「●●」や「●●」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

ノートの特徴

- 箱ひげ図や四分位層等の分布や習熟度に目配りした統計表やグラフや、学力・学習状況等について多面的な分析を行うための結果チャートを掲載。
- 教科調査の分布や質問調査の結果等について文章で記載。

ノートの記載例

(分布・層分布関係)

- D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- 教科・●●教科について、全国の結果と比較して、D層の割合、バンド1の割合が多い結果となっている。他の教科について、D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。

(質問調査関係)

- 小学校(中学校)においては、「●●」や「●●」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「●●」や「●●」領域のスコアについて、低い結果が出ている。

※各項目の数値は、基本的に有効数字3桁で表記。ただし、中学校理科の全国(公立)IRTスコアは7/14公表資料に合わせた表記、各都道府県・指定都市の平均は実施概況(全国)に合わせた表記。